

四 現ニ國語ヲ以テ審辨シタルト
通事ノ立會ヲ不用ト認メタル推測ノ効力

一 公正ノ證書アリト雖モ既往ニ溯テ其推測ヲ取消ス
コトヲ得ス

二 外國人タルノ證アリト雖モ亦其推測ヲ取消ス
コトヲ得ス

○井田氏曰ク聾者文字ヲ解スル時ハ書面ヲ以テ問ヒ之ニ
答ヘシム啞者ハ口ヲ以テ問ヒ其文字ヲ解スル時ハ書面
ニテ答ヘシム共ニ文字ヲ知ラサルニ於テハ通事ヲ命シ
手様等ヲ以テ事ヲ通セシム 治罪法釋要
第七十六條
○長井氏曰ク本條第一項ハ被告人又ハ對質人聾ナル歟又
ハ啞ナル時ハ書面ニテ問ヒ或ハ答ヘサセ若シ文字ヲ解

セサル時ハ形容其他ノ慣手ヲ以テ事柄ヲ通スル者ヲ選
ミテ其事實ヲ問答セシムルヲ云フ○第二項國語ニ通セ
サルモノトハ邊隅僻地ノ民或ハ其地ノ方言ヲ解スルノ
ミニテ一般普通ノ國語ヲ解セサルモノカ又ハ外國人ニ
テアリシ場合ヲ云フ 治罪法釋要
百四十九條

○立野氏曰ク本條ハ聾啞者及ヒ國語ニ通セサル者ノ訊問
處分ヲ示ス被告人又ハ對質人聾ナル者文字ヲ解シ啞ナ
ル者文字ヲ書スルコトヲ得ル時ハ共ニ書面ヲ以テ問答ス
可シ若シ共ニ文字ヲ知ラサル時ハ記號等ヲ以テ其意ヲ
通セシムル爲メ通事ヲ命ス可シ此場合ニ於テハ豫審ノ
處分酷ク困難ニシテ免訴ノ言渡ヲ以テ之ヲ終結スルニ
至ルコト多キモノトス○被告人對質人邊隅僻地ノ者ニテ

其地方ノ方言ヲ解スルノミニテ判事其言語ヲ解スルヲ能ハス被告人等モ亦其意思ヲ通スルヲ能ハサルノ場合ニ於テハ其言語ヲ通スル通事ヲ用フ可シ外國人對質者トナリタル時亦同シ治罪法註解第百七十四條

○織田氏曰ク被告人又ハ對質人ツンボナルキハ書取ヲ以テ問ヒオシナルキハ書取ヲ以テ答ヘシムルナリ若シ聾者聾者字ヲ知ラサルキハ此等ノ通事ヲ爲ス者ヲ命ス可シ被告人又ハ對質人日本語ニ通セサルキモ亦通事ヲ命スルナリ○本條ハ言語ニ通セザル被告人對質人ノ訊問ヲ爲ス場合ヲ云フナリ若シ被告人對質人聾ナルカ啞ナルカ或ハ聾啞ヲ兼ヌルト雖モ文字ヲ解スルヲ得ハ更ニ困難ヲ見ルヲナシサント之ヲ解セサルニ於テハ唯々

聾啞者ノ爲メニ造リタル所ノ記號ヲ以テ其意ヲ通スルノミナリ若シ天性ノ聾啞ナル者ハ刑法ニ從ヒ其刑罰ナシ故ニ本條ノ場合ニ於テハ眞ニ其聾啞ナルカヲ檢証スルヲ以テ豫審處分ヲ止ムルモノトス又法律ニ於テハ被告人國語ヲ話スルヲ能ハサル場合ヲ豫見シタリ是ノ邊隅僻地ノ民或ハ其地方ノ言語ヲ解スルノミニシテ判事其方言ヲ解スル能ハス被告入モ亦判事ノ意思ヲ知ル能ハサル場合並ニ外國人ノ被告人タルキ等ヲ指スモノナリ治外法權ノ約ヲ解クニ至テハ此規則ノ行ハル、天々廣カル可シ治罪法註解第百七十八、九條

○詳解ニ曰ク本條ハ若シ被告人又ハ對質人等性ヲ聾啞ニ稟ケ又ハ宿痾ノ爲メ一朝聾啞トナリタルモノ且兼テ文

字ヲ知ラサル者或ハ邊隅僻陬ノ民其地方ノ方言ヲ解スルコトヲ得ルモ法廷ノ用言ヲ解セズ又ハ他邦ノ人ニテ我國語ニ通セサル者アラソフ慮リタルモノニテ別ニ解説ノ要ナシ治罪法詳解第十卷第五號

○森氏曰ク被告人對質人聾者ナルモ文字ヲ知ル時ハ書面ヲ以テ問ヒ啞者ナル時ハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者啞者文字ヲ知ラサル時ハ親戚故舊等平生能ク手標等ヲ以テ意ヲ通スル所ノ者ヲ以テ通事ト爲ス可シ被告人對質人普通ノ日本語ヲ知ラサル時モ亦通譯人ヲ用ユヘシ治罪法詳解大成第百三號

編者曰ク立野氏云ク聾者啞者ノ被告人ヲ通事ヲ以テ訊問スル場合ニ於テハ豫審ノ處分酷ク困難ニシテ免訴ノ言渡

ヲ以テ之ヲ終結スルニ至ルコト多キモノトスト嗚呼何ソ誤レルノ甚シキヤ被告人聾者又ハ啞者ナルモ之ヲ訊問スルハ甚ク難シト雖モ之ノカ爲メ多ク免訴ノ言渡ヲ爲スコトアラソフ其ノ豫審判事ノ終結ノ言渡ヲ爲スヤ種々ノ証憑ニ因リ其實質ヲ認定スルモノニシテ只被告人ノ陳述ノミニ是レ由ル者ニ非ラス故ニ被告人ハ聾者又ハ啞者ニシテ充分ノ取調ヲ爲スコトヲ得サルモ他ノ証憑ニ因テ其實質ヲ取調ヘ以テ公判ニ付ス可キト免訴ス可キトヲ判定スルコトヲ得ル者ナレハ何ソ聾者啞者ニ限リ免訴ノ終結多シトスルコトヲ得ソ平仮令聾啞者ニ非ラサル被告人ト雖モ狡猾ナル者ハ更ニ知ラストノミ答ヘ毫モ其他ノ事ヲ言ハサル者ナリ然レモ豫審判事ハ他ノ証憑ニ因テ相當ノ判決ヲ爲シ

必ス免訴ト限ラサルナリ

第五百五十七條

通事ハ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ爲ス可シ
書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第九十二條第九十三條第二百條ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(註)本條ハ通事宣誓ヲ爲シ調書ニ署名捺印スル等ノ規則ヲ定ム通事ハ言語相通セサル兩者ノ間ニ立テ彼此ノ意ヲ通スル者ナレハ毫モ私意ヲ介マズ正實ニ彼此ノ問答ヲ通譯セサル可カラス故ニ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ爲サシムルナリ若シ故ラニ詐偽ノ陳述ヲ爲セ

ハ刑法第二百二十四條ニ依リ之ヲ罰スル者ナリ
通事ヲ介ミテ訊問シタルキハ書記其調書ヲ通事ニ讀聞カセ之ニ署名捺印セシメ以テ其通譯ノ正實ナルヲ証セシムルナリ通事調書ニ署名捺印スルモ又本人ニモ署名捺印セシムル者ナリ何トナレハ通譯ニ因テ記シタル調書ハ又之ヲ譯シテ本人ニ知ラシムルヲ能ハサル場合アルヲナシ故ニ書記ハ調書ヲ通事ニ讀聞セ
通事ハ又其本人ノ知ル所ノ言語或ハ形容ヲ以テ其調書ノ意ヲ本人ニ知ラシムル者ナリ此際本人變更増減ヲ申立レハ第五百五十二條ノ規則ニ從ヒ更ニ之ヲ錄取スル勿論ナリ第三項ハ明瞭ニシテ説明ヲ要セズ
一 通事宣誓ヲ爲スノ解

〔一〕村田氏曰通事ハ其事ニ取掛ル前正實ニ通譯ス可キ旨ヲ誓ヒ其信憑ヲ表セサル可カラズ其宣誓ヲ爲スニ付テノ法式ハ鑑定人ノ宣誓ニ付キ第百九十三條ニ定ムル所ニ同シ〇書記通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ヲ整頓スルノ法式ハ第百五十一條ニ記スル所ト異ナルヲナシ治罪法註釋第四卷第十三葉

〇清浦氏曰通事ハ其事ニ取掛ル前名譽ト本心トニ依リ正實ニ通譯ス可キ旨ヲ誓ヒ其信憑ヲ表スヘキモノトス吾カ治罪法ニ定ムル所ノ宣誓ハ名譽ト本心トニ誓フコトニテ彼歐洲各國ニ於テ宗教ニ基ク所ノ誓ト異ナリ〇書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ署名捺印セシム〇通事ハ法律上之ヲ鑑定人ト同視ス故ニ鑑定人呼出ノヲ呼出ニ應セサルハ罰金ヲ言渡スト宣誓ノ下旅費日當等支給ノ

一 付キ第百九十二條第百九十三條第二百條ニ定メタル規則ハ通事ニモ亦之ヲ適用スモノトス聽證筆第九號第五百三十一、二葉

〇横田氏曰通事タルヲ得ヘキ者治罪法註釋第二卷第百四十二、三葉

一 國語ニ通セサル者ニ付テ命ス可キ通事ハ丁年ニシテ民事原告人檢察官裁判官又ハ宣誓ヲ爲ス可キ者ナルト否トニ拘ハテス證人ニ非サル者ナルヲ要ス

二 聾者啞者ニ付テ命ス可キ通事ハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ其年齢及ヒ身分ノ如何ニ拘ハルヲナカル可シ蓋シ平常是等ノ者ト通接スルヲ得ル者ハ纔ニ一人ニ限ルヲアルヲ以テナリ然レモ宣誓ス可キ能力ナキ者ヲシテ宣誓ヲ爲サシム可カラス

三 法律ニハ通事ヲ忌避スルヲ及ヒ忌避ス可キ理由ヲ

定メスト雖モ其誠實ナラズ又ハ其任ニ堪サルノ疑アル時ハ異議ヲ申立ルヲ得裁判官ハ唯事情ヲ酌量シテ其申立ヲ判決ス可シ

通事ノ職務

一 通事ハ言語ノ通セサル者ヲ輔翼シ誠實ニ通譯ス可キ者トス故ニ被告人ノ親屬ノ如キハ證人ト爲ルヲ得スト雖モ通事ト爲ルニ妨ケナカル可シ

二 通事ハ裁判官及ヒ對質人ヨリ言語ノ通セサル者ニ對スル口述及ヒ被告人若クハ裁判官ヨリ通譯ス可キヲ求メタル事件ヲ總テ通譯セサル可カラズ否サレハ通譯ノ効ナカル可シ

○井田氏曰ク宣誓ハ其言ノ正實ヲ保スル爲メニ爲サシム

ル所ナリ以下皆同シ治罪法註釋第七十六條

○長井氏曰ク通事ハ鑑定人ト同視スルヲ以テ其呼出ニ應セス其職ヲ行フヲ肯セス又ハ宣誓スルヲ拒ムルハ鑑定人ニ於ケルト同ク刑罰ヲ加フヘキモノトス蓋シ宣誓ノ式ハ證人ニ付キ定メタルモノト同一ナリ治罪法註釋第一百五十條

○立野氏曰ク判事ハ自カラ通譯ノ眞偽ヲ驗審スルヲ能ハサルヲ以テ通事ハ誠實ニ職務ヲ行フ可キ旨ヲ誓ヒ其眞實ニ出ルノ信憑ヲ表ス可シ其宣誓式ハ證人ニ付キ定メタルモノト異ナルヲナシ○通事ハ訊問ノ調書ニ署名捺印ス可シ是レ其信憑ヲ表スル証トスルモノナリ○通事ハ法律上鑑定人ト同視ス故ニ第九十二條第九十三條第二百條ノ規則ヲ以テ本條ニ適用ス治罪法註釋第一百七十五條

○織田氏曰ク通事ハ正實ニ實事ヲ通譯トテ解キ直ホス可
 キ誓ヒヲ爲ス可ク書記ハ通事ニ訊問對質ノ調書ヲ讀聞
 カセ之ニ氏名ヲ書シ印ヲ押サシム可キナリ第百九十二
 條第百九十三條第百條ニ記載シタル鑑定人呼出シノ
 手續並ニ其給料等ノ規則ハ通事ニモ亦用フルモノトス
 ○本條ハ通事ノ眞偽ヲ驗審スル爲メニ規則ヲ設ケタル
 ナリ蓋シ判事ハ通譯ノ如何ヲ知ルコト能ハサレハ通事ヲ
 ノ其誠實ニ職務ヲ行フ可キ旨ヲ誓ハシメ以テ眞實ニ出
 ルノ信憑ヲ表スト爲ス其誓ヲ爲スノ法式ハ証人ニ付キ
 定メタルモノト異ナルコトナシ此通事ハ法律上之ヲ鑑定
 人ト同視ス故ニ其職ヲ行フヲ肯セス又ハ宣誓スルコトヲ
 拒ムキハ鑑定人ニ於ケルト同シク刑罰ヲ免ルコトヲ得ス

是ヲ以テ第百九十二條其他ノ規則ヲ以テ罰金ニ處スル

ナリ治罪法註釋第
二百八十五條

○詳解ニ曰ク本條ハ前條ニ所謂通事ヲ用ヒタル判事ハ
 自ラ通譯ノ眞偽ヲ驗審スルノ難キヲ以テ其信任ヲ固カ
 ラシメンカ爲メ誠實ニ職務ヲ竭クスヘキノ宣誓ヲ爲サ
 シムルコトヲ定メ且其通譯ノ事實ヲ錄取シ之カ眞實ヲ証
 セシムルコトヲ示スモノトス治罪法詳解第十
三號第五六條

○森氏曰ク前條ノ通事ハ其事ニ取掛ル前正實ニ通事ヲ爲
 スヘキ旨ヲ誓フ可シ已ニ通事ヲ爲シ終リタル時ハ書記
 通事ニ調書即チ書取ヲ讀聞カセテ之ニ署名捺印セシム
 第百九十二條第百九十三條第百條ノ規則ハ本條ニモ
 之ヲ用ユヘシ治罪法註釋大
成第百三條

編者曰、右諸氏ノ説允當ナリ

治罪法異同辨第五十一號

堀田正忠

同輯

高谷恒太郎

第五節 檢證及ヒ物件差押

○横田氏曰、檢證及ヒ物件差押ノ解治罪法講義第二卷
第四百三十三條

- 一 證憑ニ二種アリ第一ヲ無形ノ證憑トシ第二ヲ有形ノ證憑トス被告入及ヒ證人ノ訊問等ハ無形ノ證憑ヲ得ルノ方法ニシテ檢證及ヒ物件差押ノ處分等ハ有形ノ證憑ヲ得ルノ方法ナリトス
- 二 無形ノ證憑ト有形ノ證憑トハ共ニ其効力ノ強弱アルニ非ラス無形ノ證憑ハ實況ヲ詳悉スルニ便ナリト雖モ其證憑ヲ明示スルニ苦ムトアリ有形

編者曰右諸氏ノ説允當ナリ

治罪法異同辨第五十一號

堀田正忠

同輯

高谷恒太郎

第五節 檢證及ヒ物件差押

○横田氏曰シ檢證及ヒ物件差押ノ解治罪法講義第二卷 第四百三十三四葉

一 證憑ニ二種アリ第一ヲ無形ノ證憑トシ第二ヲ有形ノ證憑トス被告人及ヒ證人ノ訊問等ハ無形ノ證憑ヲ得ルノ方法ニシテ檢證及ヒ物件差押ノ處分等ハ有形ノ證憑ヲ得ルノ方法ナリトス

二 無形ノ證憑ト有形ノ證憑トハ共ニ其効力ノ強弱アルニ非ラス無形ノ證憑ハ實況ヲ詳悉スルニ便ナリト雖モ其證憑ヲ明示スルニ若シトアリ有形

シ證憑ハ其證憑ヲ明示スルハ容易ナリト雖モ亦
實況ヲ詳悉スルニ若シトナシテモ故ニ有形無
形ノ證憑並存スルト否ト付テハ願或官更以注
意ヲ要スルモノトス

第一百五十八條

豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ニ重罪
輕罪ノ犯所ニ臨ミ檢証ヲ爲ス可シ
又檢事ノ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖モ臨檢
ス可シ

(註)本條ハ犯所臨檢ニ關スル規則ヲ定ム犯所臨檢ハ檢証
處分中最モ緊要ナル者ナリ何トナシテ重罪輕罪ノ犯
罪所ニ臨ミ其場所ノ景狀等ヲ點檢シ證據物件アノハ之

ヲ差押フル等ノ處分ヲ爲ス者ナレハ之レカ爲メ事實
ヲ發見スルコト少カラサレムナリ而テ其臨檢ハ豫審判
事ノ職權ヲ以テ爲スヘキ者ナレモ常ニ之ヲ爲ス可キ
者ニ非ラス事實發見ノ爲メ必要ナル時ニ限ルナリ且
臨檢ヲ爲スルハ第一百五十九條第六十條ノ處分ヲ爲
スルニ注意セサル可カラズ
檢事ヨリ臨檢ノ請求アリタル時ハ豫審判事ハ之ヲ拒
ムコトヲ得ス如何ナル場合ト雖モ其求ニ應ジ臨檢セザ
ル可カラズ何トナシテハ犯所ニ臨檢セザレハ其請求ノ
當否ヲ知ルコトヲ得ス若シ實地ニ往カスニテ之ヲ拒ム
ルハ後之ヲ悔ユルモ及ハサル以テ患ナシトモ故ニ法
律ニ於テ決シテ之ヲ拒ムコトヲ得ヌト定メタリ

一 豫審判事犯所ニ臨檢スルノ解

〔一〕村田氏曰ク犯罪ノ痕迹多クハ犯所ニ現存スル者ナリ故ニ犯所ニ就テ檢證處分ヲ爲スハ事實ヲ發見スルニ付キ甚ク必要トス豫審判事臨檢ヲ爲スニハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ請求ナシト雖モ自己ノ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得一般ノ場合ニ於テ豫審判事ハ不羈獨立ノ者ナルヲ以テ檢事ノ請求ニ從ハサル可カラサルノ義務ナシ然レトモ臨檢ス可キ事ニ付キ檢事ノ請求アリタル時ハ必ス之ニ應セサル可カラス是レ例外ニ屬スル者ナリ

治罪法註釋 第四卷第十

○清浦氏曰ク凡ソ一ノ犯罪アルヤ或ハ有形ニ或ハ無形ニ或ハ直接ニ或ハ間接ニ其證憑ナキモノハ殆ント稀ナリ

夫レ犯罪ノ證憑ハ多クハ其現場ニ存在スルモノナレハ事實ヲ發見スルハ實ニ檢證處分ニ在リ故ニ現行犯罪現行犯ノ場合ヲ分タス苟モ證憑又ハ事實參考トナルヘキモノナレハ事ノ細大物ノ多寡ヲ論セス調査シテ必ラス之ヲ集取シ裁斷ノ資料ニ供セサルヘカラス若シ勸査檢探苟クモ其機ヲ失スルトキハ犯罪ノ痕迹ヲ消散セシメテ復タ蒐集シ難キノ恐レアリ是レ臨檢處分ノ必要ニシテ且便速ヲ要スル所以ナリ○犯罪ノ痕迹ハ多クハ犯罪ノ場所ニ存在スルヲ以テ犯所ニ臨檢スヘシトシタルモ獨リ犯所ニ限ラズ其他ノ場所ニ於テモ臨檢ヲ必要ナリトスルトキハ臨テ檢證ヲ爲スヘキハ勿論ナリトス○臨檢ヲ爲スニハ書記ヲ同行ス第百四十八條參看スヘシ又

檢事ハ檢證處分ニ立會ヲユトアルヘシ何トナシハ檢事
 ハ豫審處分ニ付キ臨時請求ヲ爲スノ權アルヲ以テナリ
 第百廿七條參看スベシ又巡查ヲ隨帶スルコトスルヘシ
 何故カレハ場所ノ取纏其他被告人及ビ物件等ヲ取押ヘ
 看護スル等ノ任ヲ闕クヘカラサルヲアレハナリ○豫審
 判事ハ必ラスシモ檢事ノ意見ニ從ハサルヘカラサルモ
 ノハアラズ然レモ臨檢スヘキノ請求ニ於テハ之ヲ拒絕
 スルコトヲ得ス又臨檢ハ被告人民事原告人ヨリモ之ヲ請
 求スルコト得但是等ノ者ノ請求ニ於テハ豫審判事必ラス
 シモ之ニ從ハサルヘカラサルモノニアラズ臨檢ヲ爲ス
 事否ハ其全ク其職權ニ在ルモノナリ臨檢權第九號第
 五百三十三四五號第
 ○横田氏曰ク豫審判事ノ臨檢始罪法請義第二卷
 第四百四十五六號

一 臨檢ス可キ場合ハ檢事又ハ豫審判事ノ考定ニ任ス
 二 臨檢スルニハ檢事ト書記ト同行ス可シ
 三 臨檢スルニハ使下又ハ巡查ヲモ同行スルコトアルヘ
 臨檢スヘキ場合ハ檢事又ハ豫審判事ノ考定ニ任シタル
 ノ理由
 一 裁判官ニシテ檢事ノ請求ニ拘束セラル可キ處分ハ
 豫審中臨檢ノ場合ノミナリトス蓋シ第一臨檢ハ証
 憑ヲ集取スルニ最モ必要ニシテ且急速ヲ要スル處
 分ナルニ因リ其請求ノ當不當ヲ論ス可キ猶豫ナカ
 ル可シ第二臨檢ヲ以テ必要ナル處分トスルキハ其
 處分ニ付テハ上訴スルコトヲ得ヘシトスルモ臨

二 檢ノ如キハ時機ヲ失フ可カラス故ニ上訴ノ判決ヲ待テ臨檢ヲ爲サシムルモ其効驗ナカル可シ

訴訟ノ手續ハ費用減省ヲ旨トスルニ因リ立法官ハ臨檢ノ處分ヲ制限スルヲ欲スルヲ以テ豫審判事ハ其注意ナカル可カラズ然レモ臨檢ニ依テ證據ヲ得ヘキ充分ナル見込アル時ハ固ヨリ其處分ヲ遲疑ス可カラス

臨檢スルニ檢事ト書記トヲ同行スルノ理由

一 豫審處分ニハ檢事ノ立會ヲ許サスト雖モ單リ檢証

處分ニ其立會ヲ要スルハ第一原告人タルノ性質ヨリシテ其檢証ノ如何ヲ認ムルノ權ナカル可カラズ此權アルハ被告人民事原告人ニ付テモ亦同シ第百

六十三條ヲ參看ス可シ第二檢事ハ豫審處分ニ付キ

臨時請求ヲ爲スノ權アリ此權ヲ保持スル爲メニハ亦立會ヲ爲サル可カラズ第百十七條ヲ參看ス可

シ然レモ豫審判事ハ一應臨檢ス可キヲ檢事ニ通知シタル以上ハ必シモ其立會ヲ待ツニ及ハス檢事モ亦自己ノ思料ニ因リ必スシモ立會ヲ爲スニ及ハサル可シ

二 書記ハ職務上立會人ノ性質ヲ有スルニ因リ必ス之ヲ同行セサルヲ得ス又其立會ヲ拒ムヲ得ス然レモ已ムヲ得サル場合ニ於テハ第百四十八條第二項以下ノ規則ニ從フ

臨檢スルニ使丁又ハ巡查ヲ同行スルヲ得ルノ理由

一 使了ヲ同行スルハ臨時証人鑒定人等ヲ呼出シ又ハ
 差押ヘタル物件ノ運搬等ヲ命スル爲メナリ
 二 巡查ヲ同行スルハ臨時被告人ヲ逮捕シ又ハ檢証ス
 可キ場所ノ取締等ヲ命スル爲メナリ

○井田氏曰ク犯所ニ臨ミ檢証ヲ爲ストハ其場所ノ景狀ヲ
 檢視シ罪ヲ犯スノ方法ハ如何ナリシヤ犯人ハ如何シテ
 逃亡セシヤ等ヲ逐一取調ヘ其証據ヲ取集ムルヲ云フ
治罪法釋要 第七十七條

○長井氏曰ク第一項ハ重罪輕罪ニシテ犯所ニ其痕跡ヲ遺
 スモノハ勘カラザルヲ以テ豫審判事ハ其場所ニ臨ミ親シ
 ク檢証ヲ爲スヘキヲ云フ蓋シ其痕跡ハ事實ノ徵憑トナ
 リ或ハ推測トナリ又ハ犯罪事件ノ有無ニ付キ顯證トナ

或ハ犯罪人發見ノ手掛事トナルヲアルヘシ○第二項
 於テハ臨檢ノ處分ハ判事ノ職權ヲ以テ之ヲ行フアリ
 雖臨檢事ノ請求アリシモ決テ之ヲ拒絕スルヲ得サ
治罪法註釋 第五十一條

○立野氏曰ク凡テ重罪輕罪共ニ犯所ニ其痕跡ヲ遺スモノ
 酷々多シ例ヘハ門牆ヲ踰越破穿スルノ盜罪又ハ放火ノ
 未遂罪若クハ殺害ノ罪偽造貨幣ノ罪等ノ如キハ一トシ
 テ其痕跡ヲ留メサルハナシ其留メタル痕跡ハ其姓質ニ
 從ヒ或ハ徵憑トナリ或ハ事實ノ推測トナリ又犯人若ク
 ハ犯罪事件ノ有無ニ付顯跡トナル可シ○豫審判事ハ犯
 所ニ臨ミ右ノ勘察檢証ヲ爲ス可シ其臨檢處分ヲ爲スハ
 自己ノ職權ニ因リ又ハ檢事ノ請求ニ應スルモノアリ檢

事ハ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖ヒ之ヲ拒絕スルコト得ス是レ例外トシテ檢事ニ付與スル所ハ權利ナシハナリ治罪法註解第百七十六、七葉

○織田氏曰ク豫審判事ハ事實ヲ見出サン爲メ必要ナリトスル時ハ重罪輕罪ヲ犯シタル場所ニ至リ其證據ヲ點檢ス可シ又檢事ヨリ求メアリタルキハ如何ナル場合ニテモ犯所ニ臨テ檢證ヲ爲ス可キナリ○本條ハ豫審判事ノ臨檢スル場合ヲ云フナリ凡テ重罪又ハ輕罪ニシテ犯所ニ其痕跡ヲ遺スモノ酷ク甚カラス例ヘハ門牆ヲ破壊シタル盜罪又ハ殺害ノ罪撞シ人ヲ監禁スルノ罪偽造貨幣ノ罪等ノ如キハ一トシテ其痕ヲ留メサルナシ而シテ其痕跡ハ或ハ徵憑トナリ或ハ事實ノ推測トナリ或ハ犯罪事

件ノ有無ニ付キ顯跡トナル可シ是ヲ以テ豫審判事ハ犯所ニ至リ右ノ勘定檢證ヲ爲スニ於テ大ナル利益アリトス此臨檢ヲ爲スハ或ハ判事ノ職權ヲ以テシ或ハ檢事ノ請求ニ應スルモノナリ又或ル場合ニ於テハ被告人臨檢ヲ請求スルヲ得可シ是レ法律ニ於テ明文ナシト雖モ若シ臨檢ニ因リ利益スル所アレハ其請求ニ應スルハ疑ヲ容レサルナリ治罪法註釋第二百八十二、三葉

○詳解ニ曰ク問〔本條第一項ヲ設クルノ理由如何〕答〔犯罪ノ痕跡ヲ其犯所ニ遺スニ方リ之カ臨檢ヲ爲ストキハ或ハ徵憑トナリ又ハ事實ノ推測トナリ又ハ顯跡トナルコトアリテ罪ノ有無又ハ其事件ノ有無ヲ斷定スルノ必証ヲ資スルコト其例鮮少ナラサルヘシ今試ニ一二ノ例ヲ揚ケン

一 假設ハ門戸ヲ破穿シタル盜罪ノ犯所ノ近傍鋸鑿ノ遺棄シタルアリ而シテ其柄ニ記號若シハ烙印ヲ以テ較其犯人ノ誰タル徵憑ト爲スニ足ルト雖モ而モ破穿ノ痕跡ト夫ノ兇器ハ性質廣狹相符合スルヤ否ヲ檢シ又ハ足跡ノ大小等ヲ檢シテ被告人ノ人違ニアラサルヤ否ヲ知リ或ハ放火ノ訴アルニ出火ノ場所平素火氣ノアル所ナルヤ否等ヲ調査スル等ニシテ其實際ヲ益スル極メ大ナリ是レ本條ヲ設クル理由ナリ○〔問〕本條第二項ニ檢事ヲ請求アリタルハ必ス臨檢スヘシト定メタルニ據ツテ之ヲ觀シハ苟モ法律ハ罪証ヲ資スルニ至要ノ利益アリ臨檢ヲ爲スカ如キハ之ヲ例外法トシ以テ豫審判事ニ拒絕ノ自由ヲ與ヘサルモノナラメ果シテ然ル被審人

雖モ其無罪ヲ證明スルニ付テハ臨檢ヲ請求スルヲ與フムキニ似タリ然ルニ本條被告ニ及ハサルニ抑モ何レ理由ヲヤ〔答〕法章別ニ被告入ヲシテ臨檢請求ノ權ヲ認許セサル所以ハ他ナシ其狡猾ノ徒或ハ時日ヲ遷延ヲ欲シ又ハ判事ヲ瞞着セシト試ニ交々無據ニ申立ヲ爲シ其臨檢ヲ請求スルニ至ラシ然ルニ其臨檢ノ益果シテ何レニナリヤ當ニ益ナキトモオラス還テ之カ害ヲ觀ルニ追ルヘキヲ以テナリ然レモ若シ被告カ臨檢ヲ乞フニ至リ利益スル所アリト思料ヲ得ヘキニ於テハ其請求ニ應ジ臨檢處分ヲ爲スヤ當然ナリ但此場合ニ於テハ豫審判事ノ職權ヲ以テ之ヲ爲ス可キカ故ニ之カ取捨ハ豫審判事ノ決意如何ニ付ルニ任セラル

台罪法詳解第十卷第六七及第七

○森氏曰ク犯罪ノ痕跡犯罪ノ場所ニ現存スルヲ甚ク多シ故ニ犯罪ノ場所ニ臨ミ證據ヲ檢査スルヲ最モ必要ナリ豫審判事ハ必要ナル場合ニ於テハ犯罪ノ場所ニ臨テ檢證ヲ爲ス可シ若シ檢事ノ請求アリタル時ハ必ス臨檢セサルヲ得ス治罪法註解大成第四百四葉大

編者曰ク立野氏云ク檢事ノ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス是レ例外トシテ檢事ニ付與スル處ノ權ナレハナリト蓋シ誤レリ夫レ臨檢ヲ爲スコトヲ檢事ヨリ請求アリタル時豫審判事臨檢ヲ爲スハ檢事ノ權利ニ因テ之ニ應スル者ニアラス蓋シ檢事ヨリ臨檢ヲ必需ナリトシテ請求シタルキハ先ツ其場所ニ臨檢セサレハ必要ナルカ否ヲ知ルコトヲ得ス故ニ其請求アルキハ必ス臨

檢ス可シト法律ニ於テ命シキル者ニテ檢事ノ權利ニ因テ然ル者ニアラサルナリ

第百五十九條

豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ模様ニ付キ調書ヲ作ル可シ又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ヲモ記載ス可シ

(註)本條ハ臨檢ノ方法ヲ定ム豫審判事ハ犯所ニ臨檢シタルキハ現場ノ模様ヲ調書ニ記ス可キ者ナリ此レ即チ

檢証調書ナリ

犯罪ノ性質トハ謀殺故殺鬪毆殺過失殺又ハ強盜竊盜又ハ放火失火ナル事等ノ性質ヲ謂フ
犯罪ノ方法トハ毒物ヲ以テ殺シ刀銃ヲ以テ殺シ木石

ヲ以テ殺シ又ハ門戸牆壁ヲ踰越損壞シタル事等ノ方
法ヲ謂フ

犯罪ノ日時場所トハ被告人証人ノ陳述スル日時ト比
較シ又場所ノ位地ニ因テ犯罪ノ有無輕重ヲ知ルニ必
要ナル者ナリ

被告人ノ人違ナキヲ証明ス可キ模様ハ最モ注意セ
サル可カラス之ヲ証明スルノ模様ハ種々アル可シト
雖モ例ハ犯罪ノ場所ニ被告人トセラレタル者ノ名刺
ノ入レタル紙入ノ遺失アル等ノ模様ハ頗ル人違ナキ
ヲ証明スルニ足ル者ナリ

右ハ臨檢ヲ爲ス方法ノ要領ヲ掲ケタル者ナリ其外共
犯人ヲ知リ得ヘキ模様等總テ必要ナルコトハ悉ク之ヲ

調書ニ記載スル勿論ナリ臨檢ノ方法種々アリ或ハ死
屍ノ位地家ノ間取建物ノ形狀等ヲ檢シ其模様ニ因テ
大ニ感覺スル所アル可シト雖モ之ヲ要スルニ被告事
件ノ有無被告事件罪トナルヤ否被告人本犯タルヤ否
ヲ檢スルノ方法ニ過キサルナリ

檢證調書ハ豫審判事現場ニ於テ目撃推測シタル模様
ヲ記ス可キ者ナレトモ其模様ヲ知ルニハ或ハ鑑定人ヲ
シテ鑑定ヲ爲サシメ或ハ証人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ
サレハ知リ難キ者アリ故ニ此等ノ人ヲシテ鑑定証言
ヲ爲サシメタルハ其模様ヲモ檢證調書中ニ摘載ス
ル勿論ナリ且別ニ鑑定書証人訊問調書ハ之ヲ作ルナ
リ

又臨檢ノ場所ニ於テ被告人ノ利益トナル可キ摸樣アレハ之ヲモ調書ニ記載セサル可カラズ例ハ謀殺ノ公訴アリタル被告事件ナルニ闘毆殺過失殺ノ摸樣アリ又放火ノ事件ナルニ失火ノ摸樣アリ又ハ被告人ハ本犯ニ非ラス即チ人違ナル摸樣アルキハ皆被告人ノ利益トナル可キ摸樣ナリ此等ノ摸樣アレハ之ヲ記シ以冤枉又ハ過實ノ刑ニ陷ラサル様注意セサル可カラズ畢竟豫審ハ有罪無罪ノ証ヲ集取スル者ニテ有罪ノ証ノミヲ集取スル者ニ非ラサルナリ

一 檢証調書ノ解

(一)村田氏曰ク本條ニ於テハ檢証ス可キ事件ノ大要ヲ舉示シタル者ナリ抑々犯狀ハ百出ナルヲ以テ法律ニ於テ豫

メ劃定ス可キ者ニ非ス其詳細ヲ網羅シテ遺サレハ全ク豫審判事ノ注意ニ在リ○豫審判事ハ被告人ノ害ト爲ル可キヲノミヲ証明シテ調書ニ記載ス可キ者ニ非ス被告人ノ利益ト爲ル可キ摸樣モ亦調書ニ記載ス可シ是レ正理公直ニ基ク者ニシテ其職務ノ性質ニ適スル者ナリ

治罪法註釋第四卷第十四條

○清浦氏曰ク豫審判事ノ檢証スヘキ事件タル豈ニ是等二三ノ事ニ止マランヤ本條ハ其要目ノミヲ掲ケタルモノナレハ其他ノ事件ト雖モ證明シテ調書ニ記載スヘキハ論ヲ待タス○犯罪ノ性質トハ其成立ニシテ即チ謀故殺闘毆殺傷強竊盜ノ類ヲ云フ方法トハ罪ヲ犯スノ手段ニシテタトヘハ目的トスル處ノ人ヲ待受ケ途中ニ於テ要

擊シ又ハ盜罪ヲ犯スニ階子ヲ用ヒ牆塀ヲ攀越シ鎖鑰ヲ
 脱捨シテ門戸ヲ開キ又ハ偽テ制服ヲ着シ官吏ト詐稱シ
 テ室ニ入り盜ヲ行フノ類日時即チ犯罪ノ晝間若クハ夜
 陰ニ係ルト其時刻ノ何頃タルヲ詳ニス場所即チ犯所ノ
 屋内若クハ路上ニ係ルカ又家屋ハ現住カ現住ニアラサ
 ルカヲ詳ニス○檢證調書ニ記載スヘキ條件ハ○被告人
 ノ氏名年齢身分職業住所○檢證ヲ爲シタル場所○家宅
 内ニ於テ檢證ヲ爲シタルトキハ戸主又ハ其同居ノ親屬
 若クハ戸長ノ立會アリタルト○被告人民事原告人又ハ
 其代人ノ立會アリタルトキハ其氏名○犯罪ノ性質○方法
 ○日時○場所○被告人ノ人達ナキトテ證明スヘキ模様
 ○被告人ノ利益トナルヘキ模様○差押ヘタル物件ノ品

目及ヒ量數○差押ヘタル物件ニ付キ被告人ノ辨解○證
 人ノ陳述○鑑定ヲ命ジタルトキハ其申立○檢證シタル
 時間○以上數個ノ條件中ニ於テ被告人及ヒ證人ノ陳述
 鑑定人ノ申立ノ如キハ之ヲ別紙ニシテ番號ヲ附シ本體
 ノ調書ニ添置クモ妨ケナシ此調書ヲ作ルノ式ハ司法卿
 ヲリ別ニ書式文例ヲ示サルヘシ聽證部第九號第
 五百三十六七八號
 ○横田氏曰ク臨檢ノ場所ニ於テ證明ス可キ方法給罪法講義
 第二卷第百

八四七
八九七

一 犯罪ノ方法ヲ證明スルハ譬ハ死体ヲ檢スルニ先
 ツ毆殺ナルヤ刃殺ナルヤ毒殺ナルヤ其他死ニ至リ
 タル理由ノ如何ヲ認定セサル可カラス理由ノ如何
 ヲ認定スルニハ其毆殺刃殺毒殺等ヲ行フタル手續

ノ如何ヲ認定セザル可カラズ蓋シ其手續ノ如何ヲ認定スルニハ單リ有形ノ証憑ノミナラス証人ノ陳述鑑定人ノ申立等ニ依リ又ハ豫審判事ノ推測ヲ用フルコトヲ得

二 犯罪ノ手續ト其理由トヲ認定シタル時ハ犯罪ノ性質即チ謀殺ナルヤ故殺ナルヤ過失殺ナルヤヲ證明シ且其日時場所ヲモ證明スルコトヲ得ヘシ

三 犯罪ノ性質方法等ヲ證明スルハ全ク附着シタルトス故ニ同一ノ事件ニ付テハ必ス同時ニ之ヲ證明セザルコトヲ得ス然レモ被告人ノ人違ナキコトヲ證明スルハ犯罪ノ性質方法等ヲ證明スルト相附着スルコトニ非ズ故ニ同時ニ證明スルコトヲ得ザルコトヲ得セズ

四 豫審處分ハ犯罪アリシトテ取調ヲ爲ス可キニ非ス唯眞實ヲ得ヘキ爲メトシテ取調ヲ爲ス可キモノトス故ニ被告人ノ利益ト爲ル可キコトヲモ證明ス可キコトヲ言フ埃タサルナリ即チ第一項ニ記載シタル條件ニ付テ反對ノ証憑ヲ發見シタル時ハ其取調ヲモ爲サザル可カズ

臨檢調書ノ記載法

- 一 檢証ヲ爲シタル場所ヲ記載ス可シ
- 二 家宅内ニ於テ檢証ヲ爲シタルキハ戶主又ハ其同居ノ親屬若クハ戶長ノ立會アリタルモ記載ス可シ
- 三 被告人ノ氏名職業住所ヲ記載ス可シ
- 四 被告人民人原告人及ヒ檢事ノ立會アリタルキハ其

- 五 旨ヲ記載ス可シ
被告人ノ入達ナキト犯罪ノ性質方法日時場所ヲ証明ス可キ模様及ヒ被告人ノ利益ト爲ル可キ模様アルキハ之ヲ記載ス可シ
- 六 差押物件目録ヲ作りタルキハ之ヲ添ヘタル旨ヲ記載ス可シ
- 七 差押ヘタル物件ニ付キ被告人ノ辯解ヲ聽キタルキハ別ニ陳述書ヲ作り之ヲ添ヘタル旨ヲ記載ス可シ
- 八 証人ノ陳述書及ヒ鑑定人ノ申立書アルキハ之ヲ添ヘタル旨ヲ記載ス可シ
- 九 檢証時間何時ヨリ何時マテナルヲ記載ス可シ
- 十 豫審判事書記及ヒ立會人ノ署名捺印アルヲ要ス

○井田氏曰シ犯罪ノ性質トハ強盜ナルカ竊盜ナルカ又謀殺カ故殺カ其罪ノ固有ノ性質ヲ云フ方法トハ門戸ヲ踰越シテ家宅ニ入りタルカ破壊ノ入りタルカ又刀刃ヲ以テ傷ケタルカ等棒ヲ以テ傷ケタルカ等其罪ヲ犯スノ手立ヲ云フ○被告人ノ利益ト爲ル可キ模様トハ其無罪ト爲リ又ハ其罪ヲ輕シス可キ情狀ヲ云フ○豫審判事ハ罪ノ有無輕重ノ証ト爲ル可キヲ取調フルノ任アリ故ニ被告人ノ利ト爲リ害トナル可キ一切ノ模様ヲ詳悉セサル可カラス治罪法釋要第七七八條

○長井氏曰シ第一項ハ驗審ヲ爲スニ當リ判事宜シク注意シテ詳細ノ事ニ至ルマテ遺漏ナク渾テ徹懇トナルヘキ事件ヲ証明シテ調書ヲ作ルヘキヲ云フ○第二項ハ若シ

被告人ヲシテ犯人トスルニ要用ナルノミヲ記シタル
キハ被告人冤ヲ論スル能ハサルニ至ルノ恐ノアルカ故
ニ總テ被告人ノ利益トナルヘキ模様モ亦之ヲ檢証ス
ヘシト云フ 治罪法註釋第百五十二條

○立野氏曰ク豫審判事ノ檢證處分ニ付テハ其事項ノ數豫
メ之ヲ限定スヘキモノニ非ラス故ニ本條ニ於テ其大要
ヲ示ス判事其檢審ヲ爲スニ當リテハ宜シク注意シテ詳
密遺スコナク渾テ徵憑トナルヘキ事件ヲ證明シテ調書
ニ記載ス可シ○又被告人ノ利益トナル可キ模様ヲモ之
ヲ檢證スルハ正理公直ヲ旨トスル職分ノ性質ニ適合ス
ルモノトス 治罪法註釋第百七十七條

○織田氏曰ク豫審判事ハ犯罪ノ性質任方月日時刻場所並

ニ被告人ノ人違ニ非サルコトヲ證據ニ就テ明カニス可キ
模様ニ因リ調書ヲ作ル可シ又被告人ノ利益ニナル様子
ヲモ共ニ記載ス可キナリ○本條ハ詳細ニ檢證處分ニ關
スルモノヲ示セリ其事柄ノ數ハ豫メ之ヲ限定スヘキモ
ノニ非ラス判事其臨檢ヲ爲スニ方リ宜シク注意シテ詳
細ノ事ニ至ルマテ之ヲ遺漏スルコトナク渾テ徵憑ト爲ス
可キ事件ヲ證明シテ調書ニ記載ス可シ又被告人ノ利益
トナル可キ模様ヲモ亦之ヲ記載スルハ公明ノ所置ニシ
テ實ニ眞理ニ適スルモノナリ 治罪法註釋第百八十三條

○詳解ニ曰ク本條ハ若シ臨檢ヲ爲シタルキハ宜シク注意
シテ凡ソ其事項ハ細大漏スコナク渾テ徵憑トナルヘキ
モノヲ證明シテ調書ニ記載スヘキコトヲ命シ又其調書ニ

ハ被告人ノ利益トナルコトアレハ乃チ之ヲモ記載スヘキ
ト示スモノニシテ豫審判事ノ職務ハ至明至大特リ犯
罪ヲ檢スルニアラスシテ亦冤ヲ解クニアルコトヲモ示ス
モノナリ 治罪法詳解第十
三號第八九號

○森氏曰ク豫審判事臨檢ヲ爲スルハ犯罪性質方法日時場
所及ヒ被告人ノ人違アラサルコトヲ證明スヘキ模様ニ注
意シテ其調書ヲ作ル可シ又豫審判事ハ被告人ノ不利益
トナルヘキ模様ヲミナラス被告人ノ利益トナルヘキ模
様ヲ取調ヘテ之ヲ調書ニ記載ス可シ 治罪法註釋大
成第百四號
編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

第百六十條

豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件其出所

及ヒ模様ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模様
ヲ知ルニ足ル可シト思科シタル時ハ之ヲ差押ヘテ認
印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但シ其物件ヲ監護シ又ハ遞
送スルハ書記之ヲ擔任ス可シ

(註)本條ハ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件ヲ差押フル
規則ヲ定ム差押フ可キ物件ニ三種アリ一犯罪ノ用ニ
供シタル者兇器ノ類ニ犯罪ニ因リ得タル者贓物ノ類
ニ事實ヲ發見ス可キ者前條ニ記載スル所ノ者ノ類是
レナリ之ヲ差押フルニハ其物件ノ出所又ハ模様ニ因
リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル
可シト思科シタル時ニ限ルナリ犯罪ノ場所ニ在ル物
件ハ悉ク之ヲ差押フルニ非ラス例ハ死屍ノ傍ニ血可

アルキハ之ヲ以テ殺シタル者ナラント思料スルキハ
 犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル者ナリ又行兇人ノ逃亡シタ
 ル牆壁ノ下ニ被告人ノ家名ヲ焚印アル木履ヲ殘シア
 ルキハ被告人ノ人違ナキヲ知ルニ足ル者ナリ即チ
 之ヲ差押フルノ類ナリ
 犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル者ニシテ差押フ可カラサル
 者アリ雪中ニ犯人ノ逃ケタル足跡ナラント思料ス可
 キ履痕ノ印アル如キハ差押フルヲ得ス故ニ此等ハ
 速カニ之ヲ圖ニ畫キ其方寸釘數等細ニ之ヲ記シ置ク
 可シ此等ハ前條ノ圖書ニ記ス可シ雖モ猶ホ別ニ圖
 ヲ記スルヲ可トス此外死屍ノ形狀家室庭砌ノ模様等
 亦之ヲ圖記スルヲ尤モ必要ナラトス

差押ヘタル物件ニ之ニ認印ヲ爲シ且目錄ヲ作シ置ク
 可シ此ノ其物件ニ相違ナキヲ証シ又他日沒収スル
 其諸物除ク外ハ不用ニ屬スル之ヲ所有者ニ送付ス
 差押ヘタル物件ヲ監護シ又之ヲ裁判所ニ遞送スル處
 分ハ書記ノ擔任ナリ其之ヲ監護遞送スルハ尤モ注意
 セル可カラヌ流動物又ハ腐敗ス可キ物ヲ其ノ之
 ヲ蓋中ニ入レ封印ヲ爲シ偽証書ヲ如キハ紙ニ包ミテ
 封印シ又貨幣ヲ偽造スル大器械ノ如キハ其關節ノ處
 ニ封印ヲ爲シ或ハ看守人ヲ置ク等其物件ノ性質大小
 一ニ從テ現形ヲ失ハサル様處分セサル可トス

〔一〕村田氏曰ク臨檢ノ場所ニ於テ犯罪事件ノ證據又ハ徵憑ト爲ル可キ物件即チ兇器衣片其他犯人ト思料ス可キ者ノ氏名ヲ記シタル物品等ヲ發見シ審判上有用ノ者ナリト認ムル時ハ其散佚ヲ防ク爲メ差押ヘテ封印ヲ爲シ目錄ニ其品目及ヒ箇數ヲ明記ス可シ是等ノ物品ハ犯罪ヲ證明スルニ付キ效力アル者ナルヲ以テ其保存ヲ鄭重ニセサル可カラス故ニ監護遞送ノ處分ハ書記ノ擔任スル所トス治罪法註釋第四卷第十五條

○清浦氏曰ク物件トハ獨リ兇器贓物ノ類ノミナラス往復文書及ヒ其他ノ書類モ亦含蓄ス○臨檢ノ場所ニ於テ事實ヲ證明シ又ハ其參考トナルヘシト思料スル物件アル時ハ其何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ差押ス

シ但差押ハ全ク一時証憑シ散佚湮滅ヲ防クオマシテ處分ニシテ沒収ト異ナリ故ニ其物件審問ノ用ニ供スルハ及ハサルニ至レハ之ヲ還附ス應禁物ニ如何ナル場合ト雖モ又何人ノ所有ニ係ルヲ問ハス之ヲ沒収スルキモソニシテ決シテ還附スルヲナシ○物品ヲ差押ヘタルトキハ其散佚ヲ防クオマシテ封印ヲナシ其數目ヲ詳ニスルタメ目錄ヲ作ルヘシ但其物件ノ品柄ニヨリ認印ヲ爲シ難キモラアレハ之ヲ箱又ハ壺ニ入レ若クハ巾類ニ包入シ其上包ニ封印ヲナスヘキモソトス○差押物品ニ封印ヲ爲シタル上之ヲ監護シ若クハ裁判所等ニ遞送スルコトハ全ク書記ノ擔任スルキトス監聽隨筆第十號第五百四十一二三條

○横田氏曰ク臨檢ノ目的治罪法講義第二卷第百五十一二三條

一 場所ノ模様ヲ證スルコト
 二 物件ヲ差押フルコト
 物件ノ差押
 一 証憑タル可キ物件ニ非サレハ之ヲ差押スルコト得
 二 被告人ノ有無罪ノ証憑タル可キ物件ハ盡ク之ヲ差
 押スル可カラス
 書類ノ差押
 一 書類ノ秘密ハ國民ノ一大權利ナリ因リ其差押ニ
 付テハ頗ル考究ス可キコトアリ郵便遞電信ノ官署
 其他諸會社ニ寄託シタル書類ニ付テハ第六十九
 條特別段其法式ヲ定ム仍ホ同條ニ於テ證明可キ

二 第六十三條ノ注文ニ依ルニ被告人は所持スル
 書類ハ言ヲ竣クテ外人ノ所有ニ係ル書類ト雖モ之
 ヲ差押フルコト得可シ
 三 個人ノ附託ヲ受ケテ所持スル書類ニ付テハ其書類ノ
 性質ニ因リ頗ル困難ナルコトアリ通常ノ預リ人ナル
 者ハ有罪又ハ無罪ノ証憑タル可キモノト思料ス可
 キ書類ヲ呈示セサルコトヲ得ス然レモ第八十三條
 第二項ニ記載シタル者ハ其差押ヲ拒絕スルコト得
 ルハ諸學士ノ認ル所ナリ然レモ其職業外ノ事件
 ニ付テハ搜索ヲ免カレハコトヲ得ス
 差押物件ノ處置
 一 書類其他差押ヘタル物件ハ即時ニ封印ヲ爲ス可シ

若シ封印スルヲ能ハサルハ壺箱又ハ袋ニ納メ封印ス可シ

二

豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ被告ノ人ノ辨解ヲ聽カサルキハ他日差押物件ノ封印ヲ解キ之ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ爲サシメ其物件ハ裁判官渡アルマテ書記局ニ保存ス可シ

三

差押ヘタル物件不用ニ属スルモノハ檢事ニ通知シタル上ニテ其所有者ニ之ヲ却付ス可シ

○井田氏曰ク物件ノ出所ニ因リ被告人ノ人違ナキヲ知ルトハ犯所ニ遺シタル物件ノ所有主被告人ナル時ハ其犯人ニ相違ナキノ推測ヲ生ズルノ類ヲ云○物件重大ニシテ運搬シ難キ時ハ其地ニ於テ監護セシメ運搬スルコ

ヲ得ル時ハ之ヲ書記局ニ送送セシメ治罪法條第七十八條

○長井氏曰ク臨檢場所ニ於テ發見シタル物件ハ犯所ニ捐棄シタル兇器牆壁ヲ踰越スル用ニ供シタル梯子等ヲ如キ物件タル審判上有用ノ器具ニシテ其證據徵憑トナルヘキモノヲ云フ蓋シ被告人ニ示スニ其所有物ニシテ犯罪ノ用ニ供シタルモノヲ以テシ又ハ其所有物ニ非ナルモ其住所ニ於テ差押ヘタル物件ヲ示スルハ完全ナル自狀ヲ得ルモノナリ治罪法註釋第百五十三條

○立野氏曰ク豫審判事ハ臨檢シタル場所ニ於テ犯罪事件ノ徵憑蹟跡トナリ又ハ犯人ノ誰タルヲ證スルニ足ルモノ犯所ニ捐棄シタル兇器又ハ衣片其他ノ物件等ヲ發見シ審判上有用ノモノト思料シタル時ハ之ヲ差押ヘテ認

印ヲ爲シ其物件ノ種類等ヲ詳記シタル目錄ヲ作リ其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ書記ニ命ジテ之ヲ取扱ハシム可シ是レ其審判上必要ナルヲ以テ慎重ヲ加フルモノトス 治罪法註解第百七十八條

○織田氏曰ク豫審判事ハ臨檢ノ場所ニテ見出シタル物品ノ出所並ニ摸樣ニ因リ被告人ノ供述ヲ違テキヨ又ハ惡事ヲ爲シタル摸樣ヲ知ルニ足ルベキモノト考スルハ其ノ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ之カ目錄ヲ作ル可シ但シ其物品ヲ預シ置リ又ハ之ヲ送ルハ書記ノ取扱ヲ可キモノトス
○本條ハ被告ノ罪狀ヲ得ル手段ヲ云フナリ夫レ犯所ニ遺存スル所シモシハ其犯罪事件ノ徵憑顯跡ト爲リ又犯人ノ體ニシテ遺存スルニ足ルモノト爲ラズ例ヘハ犯所

ニ棄タル兇器又ハ毆打爭搏ノ爲メニ折裂シテ犯所ニ散送シタル衣片又被告人ト屬スルモノト知シ此等ノ物件ハ其審判ニ有用ノ器具ニシテ其證據徵憑ト爲ル於テ大ニ其利益アリ又若シ被告ニ示スニ其所有物ニシテ犯罪ノ用ニ供シタルモノヲ以テシ又ハ其所有物ニ非サズモ其住所ニ於テ押収スル物件ヲ示スルハ因テ完全ナル白狀ヲ得ルト爲ラサルナリ 治罪法註解第百八十四條
○詳解ニ曰ク問「本條ノ所詮如何」答「豫審判事カ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件ノ犯所ニ附着シテ移轉シ得ヘカラザルモノト外即チ兇器又ハ圖毆ニ爲メ折裂シタル衣片又ハ氏名等ヲ書記シタル手筒或ハ記號アル物件等ノ如キ荷ニ徵憑若シハ顯跡ト爲ル可シト思料スルモノト

ハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ又目錄ヲ作り之ヲ保存スルニ注意スルコトヲ示スモノニテ即チ此等ノ物件ハ被告人ニ其所有ナルヤ否ヲ問ヒ又ハ別ニ押収シタル物件等ト同一ノ性質若クハ形狀アル等ヨリ竟ニ罪ノ有無ヲ決スルノ資トナルコト甚ナカラサルヘシ是レ本條ヲ設クルノ理由ヨシテ即チ前條ハ移轉シ得ヘカラサルモノヲ檢証シ本條ハ否ヲサルモノヲ檢証スルニ用ユルノ趣意ヲ示ス

治罪法詳解第十卷第九十條

○森氏曰以臨檢ノ場所ニ於テ犯罪ノ證據ヲナルヘキ物件ヲ見出シタルキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ其目錄ヲ作ル可シ其物件ヲ監護シ又ハ運搬スルコト等ハ書記ニ於テ之ヲ擔任ス可シ

治罪法註解本卷第九十條

編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

第一百六十一條

豫審判事ハ臨檢家宅搜索物件差押ニ付其日ニ處分ヲ終ラサル時ハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

(註)本條ハ檢証處分中途ヨシテ夜ニ入り其處分ヲ中止スルキノ處分ヲ定ム臨檢家宅搜索物件差押ヲ爲スハ皆檢証處分ナリ此處分ヲ爲スハ晝夜ノ別ナキ者ナリ只家宅搜索ハ夜間之ヲ爲スコトヲ禁スト雖モ夜間ニ初テ人家ニ侵入スルコトヲ禁スルノミ晝間ヨリ搜索ニ着手シ夜間ニ及フ者ハ引續キ之ヲ爲スハ禁スル所ニ非ラズ

檢証處分ハ晝夜ノ別ナク之ヲ爲スヲ得ルト雖モ夜間ハ遺漏錯誤ノ生シ易キ者ナレハ急速ヲ要スル處分ヲ除クノ外ハ成丈ケ日中ニ之ヲ爲スヲ可トス故ニ其日ニ處分ヲ終ラサル時ハ之ヲ次日ニ讓ル可シ之ヲ次日ニ讓ルキハ其間或ハ物件ノ現狀ヲ變シ或ハ紛失スルコトナシトセス故ニ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置キ以テ豫防ヲ爲サ、ル可カラズ然レ寸時ヲ遷セハ現狀ヲ失スル如キハ夜間ト雖モ引續キ其處分ヲ爲スヲニ注意セサル可カス

一 臨檢等ノ場所ヲ閉鎖シ及ヒ看守者ヲ置クノ解

〔一〕村田氏曰ク檢証處分頗ル繁密ニ涉リ一日ニ其處分ヲ結了スルヲ能ハサルコトアリ此場合ニ於テハ犯跡ノ湮滅ヲ

防シ爲イ其場所ノ周圍ニ柵欄ヲ爲シ又ハ看守者ヲ置キ其取締ヲ爲サシムルヲ得

治罪法註釋第四卷第十五條

○清浦氏曰ク臨檢家宅搜索物件差押ニ取掛リテ其日ニ處分ヲ終ラサル時ハ犯罪ノ痕迹保存ノ爲メ其犯所ノ周圍ニ竹木ノ類ヲ以テ假ニ樊圍ヲ取設クルカ又ハ繩張ヲ爲シ或ハ看守者ヲ附シ勉メテ其原況ヲ變換セサラシムルヲ要ス看守者ハ如何ナル資格ヲ有スル人ニ限ルト云フ

コナシ臨時雇ノ者ヲ用テ妨ケナシ○以上ノ處分ハ其急速ヲ要スル場合ニ於テハ夜陰ニ及テ之ヲ爲スモ妨ケナシ斯ク説明シ來レハ家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲ス可カラサルヲ制限ヲ設ケタルノ精神タル突然夜ニ乘シ爲スハカラサルヲ云フモノナリ晝間其處分ニ取掛リ引

續テ夜陰ニ至ル場合ハ右ノ制限ニ拘ハルヲ要セス何ト
 ナレハ兇徒假面暗ニ紛レ詭術ヲ行フ等ノ弊ナケレハナ
 リ併シ夜間ハ物ニ錯誤ヲ生シ易キヲ以テ其處分急速ヲ
 要セサルモノナレハ次日ニ延スヲ可トス法律講義第二卷
 第五百四十五號第
 九十七

○横田氏曰ク其日ニ處分ヲ終ラサル場合法律講義第二卷
 第五百三十四號

一 檢証處分ハ必スシモ夜間ニ之ヲ爲スヲ得サルニ
 非ラズ然レ夜間ハ間違ヲ生シ又ハ便利ヲ缺ク下ナ
 シトセズ故ニ急速ヲ要スル場合ニ非サレハ翌日ヲ
 待テ其處分ヲ爲ス可シ

二 家宅搜索ハ第三百三十三條ノ末項ニ基キ夜間ニ之ヲ
 爲スヲ得ス必ス翌日ヲ待テサル可カラス

○井田氏曰ク場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クハ他

人ニ濫入及ヒ物件等ヲ他ニ出スコトヲ防クガ爲メナシ法律
 第七十九號

○長井氏曰ク本條說ク所ノ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守
 者ヲ置クハ犯所ニ於テ犯罪ノ痕跡ヲ失ハシ豫防
 ナルノ處置ナリ法律註釋第
 百五十四號

○立野氏曰ク本條ニ示ス所ハ犯所ニ於テ犯罪ノ痕跡ヲ保
 存スル爲メ豫防ノ處置ヲ施スニ在リ判事一日内ニ臨檢
 處分ヲ終ルヲ能ハサル場合アル時ハ其場所ノ周圍ヲ鎖
 閉シ又ハ看守者ヲ置キ取締ヲ爲サシムルヲ得法律註
 釋第
 九十七

○織田氏曰ク豫審判事ハ出張家屋ノ吟味物品ノ差押ニ付
 キ其日ニ以テ終ラサルハ其場所ヲ鎖シ

シ又ハ番人ヲ附置シテ得ルナリ○本條ニ説ク處ハ犯
 罪ノ場所ニ於テ犯罪ノ跡ヲ保存スル爲メ豫防ノ處置ヲ
 施スニ在リ判事ハ犯所ヲ看守セシムル爲メ特ニ巡查ヲ
 求ムルモ妨ケナカル可キナリ治罪法註釋第
 二百八十六條
 ○詳解ニ曰ク本條ハ前條々ニ定メタル臨檢ヲ爲スニ付一
 日內ニ處分ヲ終ルコト多シト雖モ或ハ事件ノ錯綜シタル
 力或ハ土地ノ廣漠ナル等ニ依テ其日ニ於テ處分ヲ終ル
 能ハズル者ナシト謂フ可カラス即チ本條ハ其例外ノ場
 合ニ於テ取ル可キ方法ヲ豫定シタルモノニテ別ニ疑點
 ヲ置カ所ナクハ徒ニ贅執ヲ爲スヲ須ヒス治罪法註釋第
 十三號第十條
 ○森氏曰ク豫審判事其日ニ臨檢處分ヲ終ルコト能ハサルハ
 大次日ニ引續テ其處分ヲ爲サシムルヲ得ス此場合ニ於テ

ハ他人ノ立入りテ證據ヲ湮滅スルコトヲ防クカ爲メニ其
 場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守人ヲ置シテ得可シ治罪
 法註
 解大成第
 百五號
 編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

治罪法異同辨第五十一號 追加之一

堀田正忠

同輯

高谷恒太郎

第六十二條

豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スルノ疑アル者ノ住所ニ臨檢スルヲ得
被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住所ニ在ラサル時ハ同居ノ親族若シ其在ラサル時ハ戸長ノ立會アルヲ要ス

第三十三條第三項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(註)本條ハ豫審判事家宅搜索ヲ爲ス規則ヲ定ム人民ノ家

宅ハ猥リニ侵ス可カラサルコトハ已ニ第三十三條ニ

説明セシ如シ然レ豫審判事事實發見ニ必要ナル證據
 物件ヲ搜索スル爲メ臨檢スルコトハ亦之ヲ禁ス可カラ
 ス故ニ本條ニ於テ之ヲ許シタリ
 被告人ノ住所ニ臨檢スル時ト雖レ證據トス可キ物件
 アル目的ヲ以テ臨檢スル者ナリト雖レ素ト被告人ノ
 住所ナレハ事實發見ニ必要ナル物件アル可シトノ推
 測ノミヲ以テ臨檢スルコトヲ得
 然レ被告人ニ非サル者ノ宅ニ臨檢スルハ被告人ノ宅
 ニ臨檢スルト異ナリ豫メ某宅ニハ事實ヲ証明ス可キ
 某物件ヲ藏匿セシナラントノ疑察アル場合ノミ臨檢
 スルコトヲ得

家宅搜索ノ目的ハ物件ヲ差押フルニ在リ故ニ物件ヲ

發見シタルレハ第六十四條ノ規則ニ從フ可シ
 家宅搜索ハ家宅ノ權ヲ侵シ人民ノ秘密ヲ摘發スル者
 ナレハ公明ニシテ擅恣ナク且戸主ノ利益ヲ保護セシ
 メサル可カラヌ故ニ被告人及ヒ其他ノ者ノ住所ヲ搜
 索スルニ其戸主在ラサル時ハ同居ノ親屬ヲ立會ハセ
 若シ其在ラサル時ハ戸長ノ立會ヲ要スルナリ第四百四
 十八條ノ立會人ハ書記ノ代理ヲ爲シ本條ノ立會人ハ
 戸主ノ代理ヲ爲ス者ニテ其性質異ナリト雖レ實際ニ
 於テ各別ニ立會人ヲ要スルニ及ハス彼此ヲシテ流用
 スル妨ケナシ

第三項ハ第三百三十三條第三項ニ定ムル所ノ日出前日
 沒後家宅搜索ヲ爲スヲ禁スル規則ヲ適用スル者ナリ

已ニ該條ニ詳悉セリ復々之ヲ贅セス
一 家宅搜索ノ解

〔一〕村田氏曰シ人民ノ家宅ハ侵ス可カラサルノ巢窟ナリト雖モ犯罪事件ヲ證明スル爲メ不良ノ家ヲ搜索スルハ已ムコトヲ得サルノ處置ニシテ又至當ノコトナリ戸主ノ在ラサル場合ニ於テ搜索ヲ爲スコトヲ許サレハ實際甚々差支アレン何トナレハ戸主ハ豫メ搜索アルコトヲ探知シ故サラニ隱避スレハナリ故ニ戸主不在ナリト雖モ同居ノ親屬又ハ戸長ノ立會アル時ハ其處分ヲ行フニ於テ敢テ妨ケナシトス抑々家宅搜索ハ非常ノ處分ナルヲ以テ濫リニ之ヲ行フ可カラス假令必要ナリトスル場合ト雖モ立會人ナキ時ハ決シテ之ヲ行フ可カラス○夜間ハ人民

安息ノ時間ナリ故ニ其安息ヲ妨ケンコトヲ恐レ日出前日没後ニハ假令急遽ヲ要スルコトアリト雖モ家宅搜索ノ處分ヲ行フコトヲ禁ス是レ茲ニ第三百三十三條ノ三項ヲ適用スル所以ナリ治罪法註釋第四卷第十六、七葉

○清浦氏曰シ本條ノ處分ハ之ヲ名ケテ家宅搜索ト云フ其目的及結果ハ犯所臨檢ノ處分ト敢テ異ナルコトナシ物件藏匿ノ疑アル家宅トハ窩藏牙保即チ俗ニ所謂ケイツ買ノ如キモノヲ謂フ刑法第三百九十九條強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買若クハ牙保ヲ爲シタル者又第四百一條詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者等即チ是ナリ典舖規則ニ從ヒ盜贓タルノ情ヲ知

ラスシテ典物ヲ預リタルカ如キハ藏匿シタルモノト爲
 スヘカラス但典物ト雖モ贓物ニ係ルモノナレハ之ヲ差
 押フヘキハ勿論ト雖モ藏匿シタルモノニアラサレハ家
 宅ヲ搜索スルニ及ハサルヘシ○疑トハ推測ナリ推測ノ
 ミヲ以テ家宅不侵ノ原則アルニ拘ハラヌ搜索ヲ許スハ
 自由保護ノ精神ニ背クカ如クナレトモ之ヲ許サレハ事
 實ヲ發見シ難シ然ラハ必要上已ムヲ得ヌ私益ヲ棄テ公
 益ヲ取ラサルヘカラス況ンヤ之ヲ爲ス者ハ公平正直ナ
 ル判事ナルヲヤ○物件藏匿ノ疑アレハ諸會社ト雖モ之
 ヲ搜索スルコトヲ得但外國公使館ハ勿論外國人ノ居室
 ニ係ルトキハ政府ノ裁可ヲ經而シテ後處分セサル可カ
 ラス○被告人若クハ物件ノ藏匿者不在ナルニ於テハ家

宅搜索ヲ許サスルノ實際大ニ不便ヲ生スルノミナ
 ラス其物件散佚湮滅ノ憂アリ故ニ他ノ立會人ヲ參會セ
 シメ直チニ搜索ニ取掛ルコトヲ得○家宅搜索ハ日出前日
 没後之ヲ爲スヘカラスルハ通常ノ場合ナリ夜間ト雖モ
 搜索スルコトヲ得ヘキ場合ハ警察監視ニ附セラレタル
 者ノ家宅晝間ヨリ搜索ニ取掛リ延テ夜間ニ及ヒタル時
 ○芝居人寄席飲食店湯屋遊船船宿待合茶屋楊弓場ノ類
 ハ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ時間ニ拘ハラヌ
 進入搜索スルヲ得姦盜殺傷等ノ現行犯アル場合ハ夜陰
 上雖モ進入搜索スルヲ得是等ノコトハ別段ノ法ヲ以テ之
 ヲ定ム證聽隨筆第十號第五
 百四十七八九五十五號
 ○横田氏曰ク夜間ト雖モ家宅内ニ於テ檢証又ハ搜索ノ處

分ヲ爲スコトヲ得可キ場合 治罪法講義第二卷
第百五十四五六葉

一 日中ヨリ處分ニ取掛リタル時

二 酒店、娼屋等公然門戶ヲ開設シテ衆人ハ出入ヲ許シタル場所ナル時

三 現行犯罪アル時

四 戶主ノ承諾アリタル時

搜索權ノ制限

- 一 被告人ノ家宅ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スルコトアル可シトノ推測ノミヲ以テ搜索ヲ爲スコトヲ得
- 二 被告人ニ非サル者ノ家宅ト雖モ物件ヲ藏匿シタルノ推測アルモハ搜索ヲ爲スコトヲ得諸會社及ヒ公証人ノ家宅ニ付テモ亦同シ

三 各官署ニ屬スル家宅ハ所属長官ニ照會シタル上ニ

テ搜索ヲ爲スコトヲ得

四 檢察ノ爲メ皇居ニ入ルハ豫メ政府ノ允許ヲ得ルコトヲ要ス外國公使館ニ付テモ亦同一ノ手續ニ依ラサル可カラス

家宅搜索ノ立會

- 一 本條ノ第二項ハ被告人又ハ物件藏匿ノ疑ヲ受ケタル者自宅ニ居合セサル場合ナリトス然レモ是等ノ者近方ニ在ルモハ成ル可ク其立會アルコトヲ要ス
- 二 被告人近方ニ在テ其地分明ナルモハ豫メ報知ヲ爲ス可シ若シ勾留ヲ受ケ又ハ已ムヲ得サル差支アリテ立會ヲ爲スコトヲ得サルモハ次條ニ從ヒ代人ヲ差

出スヨリ許ス物件藏匿ノ疑ヲ受ケタル者ニ付テモ亦同シ

三 被告人又ハ物件藏匿ノ疑ヲ受ケタル者ノ所在分明ナラス若クハ遠方ニ在テ豫メ報知ヲ爲スヲ能ハサル時又ハ報知ヲ爲シタリト雖モ立會ヲ肯セス若クハ代人ヲ差出サレル時ハ本條第二項ニ從ヒ同居ノ親屬又ハ戸長ノ立會アルヲ要ス

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スヲ得サルノ解ハ第二十四條第百三十三條第百六十一條ヲ參看ス可シ
○井田氏曰ク家宅臨檢ノ場合ニ於テ同居ノ親屬若クハ戸長ヲ立會ハシムルハ豫審判事他ヨリ嫌疑ヲ受ケサル爲メニシテ其處分ノ正實ナルコトヲ保スル者ナリ 治罪法釋要第七十九條

○長井氏曰ク本條ニ説ク所ノ處分ハ名ケテ家宅搜索ト云フ○家宅搜索ヲ行フニ方リテハ家人不在ナリトモ之ヲ妨クルモノニアラス但シ其不在ナルモハ戸長之ニ立會フモノトス○第三項ハ家宅搜索ノ日出前日没後ヲ禁スルヲ云フ 治罪法註釋第百五十四條五葉

○立野氏曰ク本條ニ示ス所ノ處分ハ名ケテ之ヲ家宅搜索ト云其目的果效ノ如ハ臨檢ノ處分ニ異ナルコトナシ○家宅搜索ノ處分ヲ行フニ方リ家人不在ナリト雖モ決シテ其處分ヲ遲延セシム可カラス若シ其戸主不在ナレハ同居ノ親族ヲ立會ハシメ其親族不在ナル時ハ戸長ヲシテ立會ハシム可シ立會ナクシテ擅ニ處分スルコトアル可カラズ是ノ法律上家宅不侵ノ原則ニ因リ慎重ヲ加フルモ

ノトス○第三百三十三條ノ第三項ヲ本條ニ適用スル所以
 ハ夜間ハ人ノ休安ヲ妨クルヲ以テ何等急遽ヲ要スル場
 合ト雖モ決シテ行フヲ許サ、ルモノトス治罪法註解
 第百十八條
 ○織田氏曰ク豫審判事ハ被告人ノ居所又ハ犯罪事件ノ實
 狀ヲ證明ス可キ品物ヲ藏匿トテ隠蔽スルノ疑アル者ノ
 居所ニ至リテ吟味スルヲ得ルナリ○被告人又ハ事實
 ヲ證明スヘキ品物ヲ隠蔽スル者其居所ニアラサルハ
 同居ノ親族ノ立會ヲ要シ若シ其親族ノアラサルハ戶
 長ノ立會アルヲ要ス斯ク家宅ノ搜索ヲ爲スハ日出前日
 没後ニ之ヲ爲スヲ得サルナリ第三百三十三條
 規則○本條ニ説
 シ所ノ處分ハ名ケテ之ヲ家宅搜索ト云フ其目的並ニ效
 果ノ如キハ臨檢ノ處分ト相異ナルヲナシ此家宅搜索ノ

處ヲ行フニ方リ家人不在ナルモ敢テ其處分ヲ妨クルモ
 ノニ非ラス唯々其處分ヲ行フニ方リテハ不在ナル家人
 ノ爲メニ代人ノ一種ナル者之ニ立會フヲ要スルナリ治罪
 法註釋第二
 百八十六
 七條
 ○詳解ニ曰ク本條ハ家宅搜索ヲ爲スノ處分ヲ定ム蓋シ人
 ノ住所ハ容易ク侵スヘキモノニアラスト雖モ被告人又
 ハ其他ノモノ、住所ニ事實ヲ証スヘキ物件等ヲ藏匿ス
 ルノ嫌疑ノ存スルハ之ヲ搜索ヲ爲スハ誠ニ止ムヲ得
 サルニ出ルノ處分ナリトス故ニ假令被告人又ハ其他ノ
 者其住所ニアラサルモ雖モ爲メニ此處分ヲ遲延スヘ
 カラズ然レモ其家主ノ不在ニ乘シ漫ニ之ヲ搜索ヲ爲ス
 ハ甚ク公平ヲ欠クノ處分ナルカ故ニ勉メテ同居ノ親族

若シハ兵長等ノ立會ヲ要シ以テ其處分ノ信憑ヲ存セシム且爰ニ第三百三十三條第三項ノ規則ヲ適用スルモノハ乃チ日出前日没後ハ人民ノ安息スヘキ時ナルヲ以テ此時ニ於テ搜索スルコトヲ禁スルノ主意トス治罪法詳解第十

○森氏曰ク線審判事ハ犯罪ノ場所ニ非スト雖モ被告人ノ住所又ハ證據物ヲ秘藏スル疑アル者ノ住所ニ臨テ之ヲ搜索スルコトヲ得其被告人又ハ證據物ヲ藏匿スルノ疑アル者其家ニ在レハ之ヲ立會ハシメテ搜索ヲ爲ス可シ若シ此等ノ者其家ニ在ラサルモ同居ノ親族ヲシテ立會ハシメ若シ同居ノ親屬アラサルモ兵長ノ立會ヲ以テ搜索ス可シ○夜間ハ人ノ安息スヘキ時間ナルヲ以テ搜索スルコトヲ許サズ由テ第三百三十三條第三項ノ規則ヲ循

用スヘキナリ治罪法詳解大 成第百六條

編者曰ク横田氏ハ夜間ト雖モ家宅内ニ於テ搜索ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ記列シ其第二ニ酒店娼屋等公然門戸ヲ開設シテ衆人ノ出入ヲ許シタル場所ナル時トアリ實ニ氏ノ説ノ如ク此等ノ家ハ夜間ト雖モ衆人ノ出入ヲ許シタル場所ナル時ハ公道ト異ナルコトナキヲ以テ自由ニ進入シテ搜索ヲ爲シ妨ケナキ如シ然モ本條ノ法文ニ因テ直チニ此説ヲ爲スコトヲ得ス何トナシハ本條第三項ニ第三百三十三條第三項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用スルアリ而テ其第四百十六號布告第五項ニ曰ク治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候トモ芝居人寄席飲食店湯屋遊

船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖其營業ヲ爲ス時
間又旅籠屋貸坐敷ハ日出前日没後ニ拘ハラズ搜索致シ苦
シカラスト然ハ本條ニモ右布告ヲ引テ之ヲ適用セサル可
カラス蓋シ第三百三十三條及ヒ本條ニ於テハ酒店娼家ト雖
モ夜間搜索ヲ爲スコトヲ得ス故ニ右布告ヲ以テ之ヲ許シタ
ル者ナリ然ハ横田氏ノ説ハ直チニ本條ノ解釋ニハ切當ナ
ラズト謂フ可シ

第六十三條

被告人ハ臨檢家宅搜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシ
テ立會ハシムルコトヲ得
若シ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ自ラ立會フコトヲ得ス
但豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスル時ハ此限ニ

在ラス

民事原告人及ヒ其代人ハ前ニ記載シタル處分ニ立會
フコトヲ得但豫審判事ハ其立會ノ爲メ豫審ヲ遅延ス可
カラス

(註)本條ハ被告人民事原告人臨檢家宅搜索ノ處分ニ立會
ノ規則ヲ定ム臨檢家宅搜索ヲ爲スノ目的ハ或ハ犯罪
ノ場所ヲ點檢シ或ハ物件ヲ差押ヘ以テ有罪無罪ノ証
據徴憑ヲ得ルニ在リ故ニ其處分ニハ被告人自ラ立會
フカ又ハ代人ヲ立會ハセ實地ニ就テ辨解シ物件ニ就
テ辨解シ又ハ無罪ヲ証ス可キ物件アレハ之ヲ差押フ
ル等ノ處分ヲ求メ以テ自ラ其利益ヲ保護セシムル爲
メ其立會ヲ許スナリ

然レモ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ自ラ立會フコトヲ許
 サス若シ之ヲ許スモ立會ヲ名トシテ逃亡ヲ謀ル者
 ナシトセス故ニ之ヲ禁ス代人ハ立會フモ妨ケナシ然
 モ豫審判事ニ於テ被告人ヲ同行セサレハ事實ヲ發見
 スルコトヲ得サル必要ナル場合ニ於テハ勾留セシ被告
 人ト雖モ立會ハシムルコトヲ得
 民事原告人ハ私訴ニ付キ自己ノ利益ヲ保護スル者ナ
 リ故ニ民事原告人自ラ其處分ニ立會フカ又ハ代人ヲ
 シテ立會ハシムルコトヲ許ス且豫審ニ於テハ其犯罪事
 件公訴私訴ニ普通ナルコトヲ以テ公訴ノ證據舉レハ隨テ
 私訴ノ證據モ舉ル者ナリ故ニ民事原告人ノ立會ヲ許
 サル可カラス

第三項ノ但書ニ豫審判事ハ其立會ノ爲メ豫審ヲ遅延
 ス可カラスト實ニ民事原告人ノ立會アル爲メ臨檢搜
 索ノ處分ヲ遅延ス可カラサルハ當然ナリト雖モ此レ
 獨リ民事原告人ノ立會フ場合ノミナラス被告人ノ立
 會ヲ爲ス場合ト雖モ之レカ臨檢搜索ヲ遅延スルモハ
 證據煙滅ヲ防クコトヲ得サル可シ故ニ第一項ノ場合ト
 雖モ同シク豫審ヲ遅延ス可キ者ニ非サルハ勿論ナリ
 然ルニ故ラニ此ノコトヲ第三項ノミニ之ヲ定メタルヲ
 以テ第一項ノ場合ハ遅延スルモ妨ケナキ如シト雖モ
 解釋上第一項ノ場合ニ於テモ第三項ト同一ニ豫審ヲ
 遅延ス可キ者ニ非ラサルノ精神ナリト解ス可シ
 一 訴訟關係人檢証處分ニ立會フノ解

〔二〕村田氏曰ク被告人ハ頗ル利害ノ關係アルヲ以テ自ラ檢
 証家宅搜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシム
 ルヲ得豫審判事ハ決シテ其立會ヲ拒絕ス可カラス〇
 勾留ヲ受ケタル被告人ニ付テハ逃亡ノ恐アルヲ以テ自
 ラ立會フヲ許サス然レトモ本人ノ立會アルニ非サレ
 ハ事情詳悉シ難キヲアルヲ以テ豫審判事ヨリ特ニ命シ
 テ立會ヲ爲サシムルヲアリ〇被告人ノ檢証處分ニ立會
 フヲ許ス時ハ民事原告人ニモ亦其權ヲ與ヘサル可カ
 ラス蓋シ原被告ノ權利ハ法律上平等無偏ナルヲ欲スレハ
 ナリ豫審判事ハ臨檢家宅搜索ヲ爲スニ付キ豫メ其旨ヲ
 被告人民事原告人ニ通知スルニ及ハス又是等ノ者立會
 ヲ請求シタル場合ト雖モ必シモ其至ルヲ待テ處分ニ取

掛ルヲ要セス蓋シ本條ノ處分ハ毫モ機ヲ誤ル可カラ
 サルヲ以テナリ治罪法註釋第四
 卷第十七、八葉

〇清浦氏曰ク總テ取調上ノ事件ハ各自ノ利害ニ關係アル
 ヲ以テ訴訟關係人ヲ立會ハシメ其處分ニ對シ疑惑ヲ生
 シ後言ナカラシムルヲ要ス〇勾留ヲ受ケタル被告人
 ニ立會ヲ許サ、ルモノハ或ハ虛ヲ窺ヒテ逃亡スルノ患
 ヲ防キ及ヒ看守護送等ノ手數ヲ省クニ在リ但勾留ヲ受
 ケタル時ト否トヲ問ハス代人ヲシテ立會ハシムルハ法
 律ノ禁スル所ニアラス若シ豫審判事ニ於テ被告本人ヲ
 シテ立會ハシムルヲ必要ナリトスル時ハ勾留ヲ受ケ
 タルニ拘ハラス又代人ヲ差出シタル場合ト雖モ特ニ本
 人ヲシテ立會ハシムルヲ得民事擔當人ト雖モ立會ヲ

求ムルトキハ之ヲ許スハ當然ナリトス○民事原告人ヲ
 ヲテ檢證處分ニ立會フコトヲ許シタルノ旨趣ハ原被告平等
 ノ權衡ヲ取リタル公正ノ處分法ニシテ被告ニ偏重セサ
 ルヲメナリ○檢證處分ノタメ臨場スルコトハ必ス其旨ヲ
 訴訟關係人ニ通知セサルヘカラサルノ明文ナシ併シ各
 自ノ利害ニ關係アルヲ以テ其立會ヲ許スニ付テハ豫シ
 メ其旨ヲ通知スルヲ可トス然レモ訴訟關係人ノ立會ナ
 ケレハ檢證處分ニ取掛ルコトヲ得ストスルトキハ實際
 差支ヲ生ゼン且必ラス立會ハシメサルヘカラサルノ必
 要ナキコトモアレハ立會ヲ待ツタメニ處分ヲ遅延スヘカ
 ラス（證據法第十號第
 五百五十七八條）

○横田氏曰ク訴訟關係人檢證處分ニ立會ヲ爲スノ權アル

理由 （治罪法講義第二卷
 第百五十七八條）

一 被告人民事原告人ハ檢證ノ模様ニ因リ頗ル各自ノ
 利害ニ關スルヲ以テ其處分ヲ目撃シ訴訟ニ付テ用
 意ヲ爲サ、ル可カラズ本條ニ明文ナシト雖モ檢察
 官立會ノ權アルハ言ヲ俟タズ民事擔當人ト雖モ立
 會ヲ爲スモ妨ケナカル可シ

二 訴訟關係人ヲシテ檢證處分ニ立會ハシメタルキハ
 其模様ヲ目撃シタルニ因リ疑惑ヲ生スルコトナク又
 ハ後日其處分ニ付キ不服ヲ申立ルコト難カル可シ

訴訟關係人立會ノ手續
 一 豫審判事檢證處分ヲ爲スルハ必ス其旨ヲ檢事及ヒ
 被告人ニ通知ス可シ但被告人ノ立會ヲ待ツコト能ハ

サル場合ハ此限ニ在ラス

二 民事原告人民事擔當人ニハ別段檢証處分ヲ爲ス可
キヲ通知スルニ及ハサル可シ但民事ニ關シ是等
ノ者ノ立會ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

○井田氏曰ク勾留ヲ受クル被告人ハ臨檢等ノ處分ニ立會
フヲ許サズ若シ之ヲ許ス時ハ其逃亡ヲ招クノ恐アレ
ハナリ 治罪法釋要
第七十九條

○長井氏曰ク本條ニ於テハ判事臨檢又ハ家宅搜索等ノ處
分ニ付キ自他ヲ問ハズ被告人ヲ立會ハシムルヲ得ヘ
ク且他人ノ家宅ヲ搜索スル場合ニ非サレハ法律上被告
人立會ノ權ヲ剝クヘカラサルモノトス○民事原告人被
告人等前項ノ處分ニ立會フヲ得ルモ豫審判事豫テ其

旨ヲ通牒スヘキ義務ナシ但此等ノ者ヨリ豫テ其處分ニ
立會ヲ爲サント望ム旨ヲ判事ニ申立ツヘキモノトス
治罪法註釋第
百五十六條

○立野氏曰ク被告人ハ臨檢家宅搜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ
代理人ヲシテ立會ハシムルヲ得是レ其被告人ノ利害如
何ニ關スルヲ以テ正理ニ於テ此權利ヲ與フルモノナリ
○若シ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ立會ヲ請求スルヲ
得サレシム但本人ヲシテ現場ニ就キ證明セシムルヲ要
スルノ場合アルニ於テハ判事ノ見込ヲ以テ立會ヲ爲サ
シム可シ○民事原告人ニ付テハ被告人ノ立會ヲ允ス場
合ニ於テ其立會ヲ允スモノトス但判事ノ見込ニ因リ民
事原告人ノ立會ヲ要スルト思料シタル時ハ此限ニ在ラ

○ 判事ニ於テハ家宅搜索ノ處分ヲ爲サントスル時檢事並ニ被告人民事原告人ニ其旨ヲ通牒スヘキノ義務ナシ但此等ノ者ヨリ其處分アルヲ知了シタル時立會ヲ爲サントテ望ム旨ヲ判事ニ求ムルモノトス判事ハ急遽ヲ要スルニ於テ立會人ヲ待タスシテ其處分ニ取掛ルルヲ得可シ治罪法註解第百八十一條第二節

○ 織田氏曰ク被告人ハ判事ノ出張家宅吟味ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲ以テ立會ハシムルヲ得ルナリ○ 若シ被告入勾留セラレタルキハ自カラ立會フヲ得サルナリ但シ豫審判事ニ於テ被告人ノ立會ヲ必要ナリトスルキハ此規則ノ例外ト爲ス○ 民事原告人即チ犯罪ニ因リ受ケタル所ノ損害ノ賠償返還ヲ求ムル者並ニ其代人ハ前

ニ記載シタル家宅搜索ノ處分ニ立會フヲ得ルナリ但シ豫審判事ハ其立會ノ爲メニ豫審ヲ遷延ス可カラス○ 本條ハ家宅搜索ノ處分ニ立會ヲ要スヘキノ云フナリ抑被告人ノ自カラ其家宅搜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルヲ得ルハ是レ正理ニ適スルモノニシテ被告人ノ有スル權利ナリサレド勾留ヲ受ケタルキハ已ニ其身ノ自由ヲ失フニ因リ自カラ立會フヲ得ス判事ハ家宅搜索ノ處分ヲ爲サントスルニ於テ豫メ民事原告人並ニ被告人ニ其旨ヲ通スヘキノ義務ナシ但シ此等ノ者ヨリ豫テ家宅搜索アル可キヲ知了シタルキハ其處分ニ立會ヒテ爲サントテ望ム旨ヲ判事ニ通知ス可キナリ治罪法註解第百八十八條第九節

○詳解ニ曰ク「問」被告人ヲシテ檢証臨檢又ハ家宅搜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得セシムルハ何ノ故ソヤ「答」檢証臨檢又ハ家宅搜索等ハ其被告人ノ利害ニ關スル頗ル大ナルヲ以テ通常之ヲ許スノ趣意ナリトス既ニ被告人ニ之ヲ許セハ又其差支アルキハ之カ代人ヲ出スコトモ許サ、ルノ理ナシ然レモ被告人若シ既ニ勾留ヲ受ケタルモノナルキハ之カ立會ヲ許サ、ルヲ可トスルカ故ニ此場合ニ於テハ或ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ但豫審判事ニ於テ被告人ノ立會ヲ必要ナリト思料スルキハ其職權ヲ以テ之カ立會ヲ命スルコトヲ得ルモノトス○「問」前條第二項末文但其立會ノ爲メ豫審ヲ遅延スヘカラストハ如何ナルコトヲ指稱シタルモノナルヤ

「答」法律ハ檢事民事原告人又ハ其代人ヲシテ檢証臨檢家宅搜索ニ立會フコトヲ得セシメタルニ付若シ此等ノモノ豫審判事ノ檢証臨檢又ハ家宅搜索ヲ爲スノキニ該リ己ノ差支ヲ口實トシ其日時ノ猶豫ヲ願ヒ得ヘシト誤解スルコトアラソコトヲ慮リ是等ノ者假令正當ノ事由アリテ立會ニ差支アルコトヲ證明スルモ其立會ト否トコト問ハス其請願ヲ允サスシテ直ニ之カ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ定ムルモノトス治罪法詳解第十卷第三號第十二三條

○森氏曰ク被告人ハ臨檢家宅搜索ニ立會フノ權利アリ又代人ヲシテ立會ハシムルノ權アリ但シ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ逃亡ノ恐アルヲ以テ自ラ立會フコトヲ許サス然レモ豫審判事被告人ノ立會ナケレハ事實詳明ナラヌ

ト見込ムキハ被告本人ノ立會ヲ命スルヲ得〇被告入
 已ニ右ノ處分ニ立會ノ權アレハ民事原告人モ亦之レニ
 立會フノ權アリ但シ豫審判事ハ民事原告人ノ立會ヲ待
 テ處分ヲ遲延スルヲ得ス 治罪法註解大
 成第百七葉
 編者曰ク右諸氏ノ説允當ナリ

第六十四條

家宅搜索ノ場合ニ於テ豫審判事ハ第六十條ノ規則
 ニ從ヒ物件ヲ差押フ可シ
 物件ヲ差押ヘタル時ハ其目錄ノ謄本ヲ立會人ニ渡ス
 可シ

(註)本條ハ家宅搜索ノ際物件ヲ差押フル規則ヲ定ム家宅
 ヲ搜索スルノ目的ハ素ト物件ヲ差押フルニ在リ而テ

其物件ヲ差押フルニハ第六十條ノ規則ニ從ヒ處分
 ス可シ即チ物件ノ出所及ヒ摸樣ニ因リ被告人ノ人違
 ナキト又ハ犯罪ノ摸樣ヲ知ルニ足ル可シト思料シタ
 ル時等總テ事實發見ニ必要ナリトスル物件ヲ差押ヘ
 テ認印ヲ爲シ目錄ヲ作り書記ヲシテ其監護ヲ爲シ又
 ハ遞送セシムル者ナリ而テ其目錄ノ謄本ヲ立會人ニ
 渡シ置クハ後日紛亂セサル爲メ之ヲ豫防スル者ナリ
 一 家宅搜索ノ際物件差押ヲ爲スノ解

(一)村田氏曰ク豫審判事ハ家宅ヲ搜索シテ其果效ヲ得即チ
 犯罪ヲ證明スルニ足ル可シト思料スル所ノ物件ヲ發見
 シタル時ハ第六十條ノ規則ニ從ヒ之ヲ差押フ可シ其
 物品目錄ノ謄本ヲ立會人ニ渡スハ所有權ヲ重ニスルノ

趣意ニ出タル者ナリ若シ其目錄ノ謄本ヲ下付セサル時
ハ立會人ヨリ之ヲ求ムルノ權アリ 治罪法註釋第四卷第十八九葉

○清浦氏曰ク第六十條ニ於テハ犯所臨檢ノ場合ヲ示シ
本條ハ家宅内ノ處分ヲ云フ犯所臨檢ノ際差押ヘタル物
件ニ付テハ目錄ヲ作ルノミニシテ其目錄ヲ立會人ニ渡
スニ及ハス但其場ニ居合セタル者ノ中ニテ所有主アリ
テ目錄ノ寫ヲ下附セラレシコトヲ求メタルモハ格別ナ
リトス○家宅内ニ於テハ否ラス物品保護ノタメ特ニ被
告人若クハ其親屬又ハ戶長ヲシテ立會ハシムルモノナ
レハ後日ノ憑証ニ供スルタメ目錄ノ寫ヲ立會人ニ渡ス
ヘシ○物件差押ニ關スル手續其他監護遞送等ノ一ハ總
テ第六十條ニ從フヘキモノトス 隨聽隨筆第十號第
五百五十九第六十葉

○横田氏曰ク家宅搜索ノ場合ニ於テ物件差押ヲ爲スノ手

續 治罪法註釋第二卷
第百五十八九葉

- 一 家宅搜索ノ目的ハ物件差押ナルヲ以テ其差押ヲ爲
スヲ得ヘキハ當然ナリ本條ハ第六十二條ノ場
合ニ於テモ猶ホ其手續ハ第六十條ノ規則ニ同キ
ヲ注意シタルマテニ家宅搜索ノ場合ニ於テ物
件差押ヲ爲スヲ得ヘキヲ定メタルニ非ス
- 二 物件差押ノ手續ノミナラス差押ヘタル物件ノ取扱
ニ付テモ亦第六十條ノ規則ニ從ハサルヲ得ス若
シ急遽ノ際書記ヲ同行セサルモハ何レノ場合ニ於
テモ豫審判事立會人ノ立會ニ依リ自ラ物件ヲ監護
シ又ハ遞送スルノ處置ヲ爲ス可シ

三

差押へタル物件ノ目錄ハ立會人中其物件ノ所有主
アルハ之ニ其贖本ヲ渡ス可シ若シ所有主ノ立會
ナキハ他ノ立會人ニ渡ス可シ此規則ハ第六十
條ノ場合ニ於テモ之ヲ適用スヘシ

○井田氏曰ク家宅搜索ノ場合トハ第六十二條ノ場合ヲ
指ス治罪法註釋第
第八十葉

○長井氏曰ク第六十條ニ就テ見ル可シ治罪法註釋第
百五十六葉

○立野氏曰ク家宅搜索ノ場合ニ於テ犯罪ニ關スルモノト
思量シタル物件ヲ發見シタル時ハ第六十條ノ規則ニ
從ヒ之ヲ押収ス可シ之ヲ押収シタル時ハ其物件目錄ノ
謄本ヲ立會人ニ下付ス可シ若シ之ヲ下付セサル時ハ立
會人ヨリ請求スルノ權アルヲ勿論ナリ是レ其所有權ニ

對シ下付ス可キノ義務ナリトス治罪法註釋第
百八十三葉

○織田氏曰ク家屋敷吟味ノ場合ニ於テ豫審判事ハ第六
十條即チ被告人ノ人違ナキト並ニ犯罪ノ摸樣ヲ知ルニ
足ルト思量シタル時ニ物件ヲ差押ヘル規則ニ從ヒ品物
ヲ差押フ可シ斯ク取計ヒタル時ハ其品物ノ目錄ヲ作り
其寫書ヲ立會人ニ渡ス可キナリ○本條ノ規則ニ從ヒ被
告人ノ家宅ニ非ラスシテ他人ノ家宅ニ於テ犯罪ニ關ス
ルト思量シタル物件ヲ差押へタルキハ判事必ス家人ニ
請取書ヲ下付ス可シ何故トナレハ其品物或ハ家人ノ所
有ニ屬シ或ハ其義務ヲ負フ所ノモノナル可ケンハナリ

治罪法註釋第
二百九十葉

○詳解ニ曰ク問本條第一項ノ趣意如何答本條ハ第六十

條ノ補充ニ係ルモノトス蓋シ第百六十條ニ依ルトキハ
 家宅搜索ヲ爲シタルニ因リ犯罪若クハ無罪ヲ証明スル
 ニ足ルヘキ証料ヲ得レハ即チ封印ヲ爲シ且目錄ヲ作ル
 ヘキコトヲ定ム然リ而メ之カ監護遞送ハ書記之ヲ擔當ス
 ヘシトアレトモ抑書記ガ監護遞送ヲ爲ス迄ニ如何ナル處
 分ヲ爲シテ可ナルヘキヤヲ定メス是レ本條ニ於テ其ノ
 物件ヲ差押フヘキコトヲ命シ始メテ其首尾ヲ完タカラシ
 ムル所以ナリ○問第二項ニ仍レハ物件ヲ差押ヘタルト
 キハ其目錄ノ謄本ヲ立會人ニ渡スヘシトアレトモ抑犯罪
 若クハ無罪ノ証明ヲ爲スヘキ物件ヲ押収スルハ社會ノ
 公益ヲ思フニモ被告人ノ利益ヲ慮ルニモ共ニ必要ナル
 モノナレハ敢テ其謄本ヲ渡ス等ノ手數ヲ爲スニ及ハス

直ニ押収ノ申渡ヲ爲スヲ以テ足レリトスルモノハ如キ
 ニアラスヤ答物件差押ハ素ト刑法ニ依テ宣告スル物件
 沒収トハ其性質ヲ異ニセリ則チ物件差押ノ本義ハ一時
 其物件ノ散逸藏匿ヲ防キ一ニ被告事件ノ証明ヲ爲スノ
 用ヲ欠サルカ爲ナリ故ニ唯之カ封印ヲ爲シ之ヲ運搬シ
 テ以テ公廷ニ致サシムルニ過キス而シテ其差押ヘタル
 物件目錄ノ謄本ヲ立會人ニ渡スハ其物件ノ數及ヒ所在
 ヲ確明ニシ以テ他日ノ錯雜ヲ豫防セシカ爲メナレハ管
 ニ言渡シヲ以テ足レリトスヘキモノニアラサルナリ
 法詳解第十三號
 第十三四五號

○森氏曰ク家宅搜索ノ場合ニ於テ犯罪ヲ證明スヘキ物件
 ヲ發見シタルキハ第百六十條ノ規則ニ從ヒ其物件ヲ差

押へ其目錄ノ謄本ヲ立會人ニ渡ス可シ治罪法註解大 成第百七葉
編者曰ク右諸氏ノ説允當ナリ

第百六十五條

豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否
トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可
シ

其訊問及ヒ陳述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

(註本條ハ差押ヘタル物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシ

ムル規則ヲ定ム此レ必証ヲ得ル最モ緊要ノ處分ナリ
何トナレハ人自ラ爲シタル事物ニ親シク接スルキハ
精神爲メニ動キ隨テ顔色言語自ラ變スルハ自然ノ勢
ナリ例ハ血痕アル刀ト其被殺ノ死屍トヲ示サルルキ

ハ之ヲ殺シタル者ナレハ如何ニ兇惡ナル者ト雖モ顔
色言語忽チ變シ決テ其實ヲ蔽フ一能ハサル者ナリ或
ハ落涙前非ヲ悔テ眞實ノ白狀ヲ爲ス者モアル可シ若
シ之ヲ殺シタル者ニアラサレハ之ニ接スル自若トシ
テ動カス其辨解眞ヲ表スルニ足ル者アル可シ故ニ被
告人物件差押ノ處分ニ立會タルキハ其場ニ於テ之ヲ
示シ又之ニ立會ハサルキハ後ニ之ヲ示シ必ス其物件
ニ付辨解ヲ爲サシムルキハ有罪無罪ノ必証之ニ因テ
定マルト甚カラサル可シ

其訊問及ヒ陳述ヲ調書ニ記載スルハ一般ノ規則ニシ
テ別ニ本條ニ記載スルニ及ハサルナリ

一 差押物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムルノ

解

〔一〕村田氏曰ク事實ヲ證明スルニ必要ナリトシテ差押ヘタル物件ヲ被告人ニ示シテ尋問スル時ハ被告人遂ニ惡事ヲ隱蔽スルヲ能ハスシテ眞實ヲ吐露スルヲアラシメ是レ直接ニ其物件ニ對シ神情ノ感動スル者アレハナリ其尋問及ヒ陳述ハ事件ノ虛實ヲ驗審スルニ付キ最モ重要ノ者ナルヲ以テ細大ヲ論セス之ヲ調書ニ記載セサル可カラズ

治罪法註釋第
四卷第十九條

○清浦氏曰ク被告人檢証處分ニ立會ヒタルトキハ其場ニテ一々物件ヲ指示シテ辨解ヲ爲サシメ又殺傷犯罪ノ場合ニ於テハ被兇者ニ比對セシメ又豫審ノ訟廷ニ於テハ被告人檢証處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス必ラス是

等ノ物件ニ就キ辨解ヲ爲サシムヘシ是レ事實ヲ證明スルニ於テ最必要ノ處分ナリトス例ヘハ此物件ハ汝ノ所有ナルカ如何シテ之ヲ所有スルカ此物件ノ某所ニ在ルハ如何汝ノ衣服ニ血痕ノ汚染スルハ如何衣服ノ切裂シタルハ如何又貨幣鑄造ニ供スル器械ヲ儲藏スルハ如何此紙幣ノ出所ハ如何ト訊問シ辨解セシムルノ類以上記載スル如キ問答ハ悉皆調書ニ記載シ物件ト共ニ之ヲ公判ノ資料ニ供スルモノトス其問答手續ハ第四百四十九條以下ニ定メタル被告人訊問ノ規則ニ從フヘキモノトス

隨聽證筆第十號第
五百六十一一二葉

○横田氏曰ク檢証處分ニ付キ被告人ヲ訊問スルノ手續

法講義第二卷第
百六十六十一葉

一、被告人檢証處分ニ立會ヲ爲サ、ルキハ更ニ豫審ノ
 訟廷ニ於テ被告人ノ面前ニテ差押物件ヲ開封シ之
 ヲ指示シテ辨解ヲ爲サシム可シ

二、被告人檢証處分ニ立會ヲ爲シタルキハ其場所ニ於
 テ辨解ヲ爲サシメ又ハ別段豫審ノ訟廷ニ於テ辨解
 ヲ爲サシムルコトアル可シ

四、被告人ニ辨解ヲ爲サシムルニ付テハ第四百四十九條
 以下ニ定メタル被告人訊問ノ規則ニ從ハサル可カ
 ラス

○井田氏曰ク差押ヘタル物件ハ何レモ犯罪ニ關係アリテ
 証據ト爲ル可キ物ナリ故ニ之ヲ被告人ニ示シ辨解セシ
 ム其當否如何ニ因リ罪ノ有無ヲ推知スルコトヲ得ルヲ以

テナリ 治罪法釋要
第八十條

○長井氏曰ク本條ハ被告人物件差押ニ立會フモ立會サル
 モ其差押ヘタル物件ヲ之ニ示シ其答ヲナサシムヘキヲ
 云フ蓋シ其物件ニ付キテハ様々ニ被告人ヲ訊問スヘキ
 モノトス 治罪法註釋第
百五十七條

○立野氏曰ク被告人ノ立會タルト否トヲ問ハス犯罪ノ微
 憑事實ノ推測又ハ顯跡ヲ知ル爲メ押収シタル物件ハ一
 ヲ之ヲ被告人ニ示シ其辨解ヲ爲サシム可シ例ヘハ此物
 件ハ其所有ナルカ如何シテ之ヲ得タルカ其物件犯罪ノ
 場所ニ在リタルハ如何被告人ノ衣服血ニ染ミタルハ如
 何被服ノ破裂シタルモノ犯所ニ在リタルハ如何等ノ疑
 問ヲ爲ス此訊問ニ對シテ被告人ノ供述ヲ爲スニ其眞實

ヲ吐クカ又ハ包藏スルカハ判事之ヲ辨別スルニ於テ蓋シ容易ナリトス○其訊問及ヒ供述ハ一々之ヲ調書ニ記載スヘキモノトス是レ其答辨ノ虚實ヲ檢審スルニ付キ要用ナルモノナリ治罪法註釋第百八十三四條

○織田氏曰ク豫審判事ハ被告人ノ品物差押ノ取計ヲヒニ立會ヒタルト否トニ拘ハラヌ其品物ヲ被告人ニ示シ明瞭ニ其品物ノ因由ヲ説カシム可シ此等ノ訊問並ニ申述ハ之ヲ調書ニ記載スヘキナリ○本條ハ差押ヘタル品物ニ付テ被告人ノ辨解ヲ求ムルヲ云フナリ其辨解ヲ爲サシムル爲メ判事ハ各様ニ訊問ヲ爲ス可シ例ヘハ此物件ハ其所有ナル手如何シテ之ヲ得タル乎其物品犯所ニ在リシハ如何被告人ノ衣服血ニ染ミタルハ如何其衣服ノ

折裂シタルモノ犯所ニ在リシハ如何等ノ疑問ヲ爲ス是レナリ此等ノ事項ニ付テハ更ニ通常ノ法式ニ循ヒ訊問ヲ爲ス可キモノトス而シテ其訊問並ニ陳述ハ調書ニ記載ス可キナリ治罪法註釋第百九十一條

○詳解ニ曰ク渾テ犯罪ニ係ル物件ナリト思量シタルモノヲ豫審判事カ差押ユルハ前條ニ定ムル所ナリ故ニ本條ニ於テハ其物件ヲ被告人ニ示シ之カ辨解ヲ爲サシメ且其訊問並ニ訊問ニ對スル陳述ハ之ヲ調書ニ記載ス可キヲ定ム蓋シ其訊問トハ假令ハ殺傷犯罪ニ付刀劍ノ血ニ染ミタルヲ示シ之ハ被告ノ所有ナリヤ否ヲ問ヒ或ハ闘毆罪ニ付折裂ノ衣片アルモノヲ示シ其質問ヲ爲ス等ニテ凡ソ人直接ニ其物件ニ對スルキハ或ハ精神爲ニ

感動スル所アリテ自ラ事實ヲ蔽フヲ能ハサルニ至ルヲ
アリテ實際上裨益ヲ得セシムルヲアルヘシ其他別ニ疑
點ニ涉ルモノアラスト思料スルニ付復タ喋々ノ辨ヲ載
セス 治罪法詳解第十
三號第十五六葉

○森氏曰ク差押ヘタル證據物件ニ付テ被告人正當ノ辨解
アラノモ知ルヘカラサルニヨリ其差押ヘヲ爲シタルハ
ハ被告人ノ立會フタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人
ニ示シ辨解ヲ爲サシム可シ其訊問及ヒ被告人ノ陳述ハ
通常ノ規則ニ從テ調書ニ記載ス可シ 治罪法註解大
成第百八葉
編者曰ク右諸氏ノ說穩當ナリ

治罪法異同辨第五十一號追加之貳

堀田正忠
高谷恒太郎 同編

第百六十六條

豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽クヲ
必要トスル時ハ書記ノ立會ニ依リ各別ニ之ヲ訊問ス
可シ

第百七十條以下ノ規則ハ本條ニモ又之ヲ適用ス

(註本條ハ臨檢ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問スル規則ヲ定ム
証人タル者ハ只其見聞セシ事ヲ陳述スルニ止マル者
ナレハ証廷ニテ訊問ヲ爲スヲ正則トス然レ實地實物
ニ就テ之ヲ聞カサレハ其事實ヲ証スルヲ得サル場

合アリ故ニ臨檢ノ場所ニ於テ其陳述ヲ聽クヲ許シタルナリ而テ証人其現場ニ在ルキ又ハ第百八十五條ノ規則ニ從ヒ其場所ニ同行シタルキハ差支ナシト雖モ若シ實際ニ於テ他ニ在ル証人ヲ呼出スニハ二十四時ノ猶豫ヲ與ヘサル可カラサルヲ以テ直チニ其陳述ヲ聞クヲ能ハサルカ如シ然レ此場合ニ於テハ其猶豫ヲ與ヘス即尅呼出シテ之ヲ訊問スルノ便法ヲ行フヲ得ヘシ但証人其呼出ニ應セサルモ罰金ノ言渡ヲ爲スヲ得ス此ノ規則ニ因テ猶豫アル呼出狀ヲ發セサルヲ以テナリ

實地ニ於テ証人訊問ヲ爲スモ書記ノ立會ニ依リ之ヲ訊問ス可シ若シ急遽ノ際書記ヲ同行スルヲ得サル

キハ二名ノ立會人アルヲ要ス

証人訊問ヲ爲スニ數名ノ証人アルキハ一人毎ニ之ヲ訊問シ同時ニ訊問セサルヲ本則トス此ノ雷同漏泄ヲ防クナリ故ニ臨檢ノ場所ニテ訊問スルモ此本則ヲ用ヒ各別ニ之ヲ訊問スルナリ

第百七十條以下即チ証人訊問ニ付テノ規則ハ本條ニモ之ヲ適用シ即チ証人宣誓ヲ爲スヲ及ヒ証人タルヲ得サル者ノ區別ヨリ事實發見ノ爲メ對質ヲ爲スヲ訊問調書ヲ作ルヲ等ノ規則皆之ヲ適用ス

本條ニハ証人ノコノミヲ規定シ鑑定人ノ事ヲ記セス然レ鑑定ナル者ハ實物ニ就テ鑑定スル者ナレハ其物件ノ所在ニ付テ鑑定スルヲ本則トス故ニ臨檢ノ場所

ニ於テ直チニ鑑定ヲ爲サシムルコトハ勿論別ニ明文ヲ要セサルナリ

一 臨檢ノ場所ニ於テ証人ヲ訊問スルノ解

〔一〕村田氏曰ク家宅搜索犯所臨檢ノ場合ニ於テ証人ノ陳述ヲ聽カサレハ事件ノ虛實ヲ知ルコト能ハサルコトアリ此場合ニ於テハ其場ニテ同行シタル書記ノ立會ニ依リ〔第四百四十八條參看〕各人各別ニ訊問ス是レ其陳述ノ雷同ヲ防シカ爲メナリ証人ヲ訊問スルニ付キ他ニ履行ス可キ法式尠シトセス是レ第七十條以下即チ証人訊問ノ規則ヲ茲ニ適用スル所以ナリ

治罪法註釋第四卷第二十條

○清浦氏曰ク証人訊問ハ訟廷ニ於テ之ヲ行フヲ常トス併シ時機緊急ニシテ直ニ聞供セサレハ復タ後日ニ得ルコト

能ハサル場合又ハ現場ニ就テ証言ヲ聞クキハ始中終ノ情況ヲ詳悉スルニ於テ尤效益アリト思料シタル場合ニ於テハ臨檢ノ場所ニテ訊問スルコトヲ得但此場合ト雖モ書記ヲ立會ハシムヘシ若シ事緊急ニ出テ書記ノ立會ヲ得ル能ハサル時ハ第四百四十八條ニヨリ立會人ヲ立會ハシメ他ノ証人ノ雷同ヲ豫防シ且豫審密行ノ主義ニヨリ一人毎ニ之ヲ別チ訊問スヘシ假令臨檢ノ場所ニ於テ訊問スルニモセヨ其法式ヲ履行セサルヲ得ス故ニ訟廷内ニ於テ執行スル處ノ証人訊問法即チ第七十條以下ノ法式ニ從フヘキハ當然ナリトス

隨聽隨筆第十號第五百六十三四葉

○横田氏曰ク檢証處分ニ付キ証人ヲ訊問スルノ手續治罪法講

義第二卷第百六十、六十一葉

六

三

証人ヲ分別ニ訊問スルハ豫審密行ノ主義ニ背ク可
カラサルコトヲ注意シタルモノトス此規則ハ被告人
ニ辨解ヲ爲シムルニモ亦之ヲ適用セサル可カラズ
四 証人ヲ訊問スルニ付テハ第七十條以下ノ規則ヲ
適用ス可キコトヲ定ム

○長井氏曰ク各別ニ訊問スルトハ一人宛分チテ訊問スル
ヲ云フ○証人訊問ノ法式ハ次節ニ於テ定ムル法ニ從フ
モノトス 治罪法註釋第
百五十七條

○立野氏曰ク豫審判事ハ家宅搜索犯所臨檢ノ所分ヲ行フ
ニ當リ証人ノ訊問ヲ聽クコトヲ要スルノ場合アリ此場合
ニ於テハ第四十八條ノ規則ニ從ヒ書記ノ立會ニ依リ一
人毎ニ各別ニ訊問ス同時ニ數人ヲ訊問スル時ハ相互ニ

七

其申立ヲ同一ナラシメントスルノ意思ヲ起シ終ニ其眞
實ノ證ヲ失フノ恐レアリトス第七十條以下証人訊問
ノ規則ヲ適用ス可シ 治罪法註釋第
百八十四條五條

○織田氏曰ク豫審判事ハ犯所臨檢ノ時ニ於テ證據人ノ申
述ヲ聽クコトヲ必用ナリトスルキハ書記ト立會ノ上ニテ
各々別ニ之ヲ問ヒタス可シ此訊問ヲ爲スニ於テ第百
七十條以下ノ証人訊問ノ規則ヲ用フルナリ○本條ニ於
テハ証人ヲ訊問スルニ付缺ク可カラサル所ノ一要件ア
リ即チ各人隔別ニ訊問ス可キコトヲ定ムル是レナリ蓋シ
此要件タル此ニ記載スルヲ要セサルカ如シト雖モ要件
中ノ尤モ要件ナルモノナルヲ以テ故ラニ之ヲ指定シタ
ルナリ 治罪法註釋第
百九十二條三條

六

三 証人ヲ分別ニ訊問スルハ豫審密行ノ主義ニ背ク可

カラサルコトヲ注意シタルモノトス此規則ハ被告人

ニ辨解ヲ爲シムルニモ亦之ヲ適用セサル可カラス

四 証人ヲ訊問スルニ付テハ第七十條以下ノ規則ヲ

適用ス可キコトヲ定ム

○長井氏曰ク各別ニ訊問スルトハ一人宛分チテ訊問スル

ヲ云フ○証人訊問ノ法式ハ次節ニ於テ定ムル法ニ從フ

モノトス治罪法註釋第百五十七條

○立野氏曰ク豫審判事ハ家宅搜索犯所臨檢ノ所分ヲ行フ

ニ當リ証人ノ訊問ヲ聽クコトヲ要スルノ場合アリ此場合

ニ於テハ第四十八條ノ規則ニ從ヒ書記ノ立會ニ依リ一

人毎ニ各別ニ訊問ス同時ニ數人ヲ訊問スル時ハ相互ニ

七

其申立ヲ同一ナラシメントスルノ意思ヲ起シ終ニ其眞

實ノ證ヲ失フノ恐レアリトス治罪法註釋第百八十四條以下証人訊問

ノ規則ヲ適用ス可シ治罪法註釋第百八十五條

○織田氏曰ク豫審判事ハ犯所臨檢ノ時ニ於テ證據人ノ申

述ヲ聽クコトヲ必用ナリトスルキハ書記ト立會ノ上ニテ

各々別ニ之ヲ問ヒタス可シ此訊問ヲ爲スニ於テ第百

七十條以下ノ証人訊問ノ規則ヲ用フルナリ○本條ニ於

テハ証人ヲ訊問スルニ付缺ク可カラサル所ノ一要件ア

リ即チ各人隔別ニ訊問ス可キコトヲ定ムル是レナリ蓋シ

此要件タル此ニ記載スルヲ要セサルカ如シト雖モ要件

中ノ尤モ要件ナルモノナルヲ以テ故ラニ之ヲ指定シタ

ルナリ治罪法註釋第百九十二條

八

○詳解ニ曰ク家宅搜索犯所ノ臨檢ヲ行フニ方リ證人ヲ訊問スルノ緊要ヲ覺フルコトナシトスヘカラス是レ本條ヲ設クルノ理由トス但証人ヲ訊問スルニハ第六節ニ定ムル所ノ法式ニ從フヲ勉ム可キナリ然レモ其法廷ニ於テスルト家宅若クハ犯所ニ於テスルト或ハ一樣ニ行ハルヘカラサルモノアリテ其間彼是ノ別ナキ能ハス蓋シ法律ハ一々之ヲ明示セズシテ實際行ハレサルモノヲ強テ行フコトヲ命セスト雖モ其証人ヲ各別ニ訊問スルハ誠ニ至要ノコトナルヲ以テ茲ニ之ヲ定ムルモノトス

治罪法詳解 第十三號第 七十六 葉

○森氏曰ク犯所臨檢家宅搜索ノ場所ニ就テ證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要ナリトスル時ハ書記ノ立會ヲ以テ各別ニ

證人ヲ訊問ス可シ證人ヲ訊問スルニ付テノ法式ハ第七十條以下ニ在ルヲ以テ右ノ場合ニ於テモ第七十條以下ノ規則ヲ履行ス可シ

治罪法註解 大 成第百八葉

編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

第六十七條

豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラズ允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アル時ハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得

九

(註)本條ハ前數條ノ處分中其場所ノ出入ヲ禁スルノ規則ヲ定ム豫審判事前數條ニ記載シタル處分即チ臨檢家宅搜索物件差押等ノ處分ヲ爲スハ畢竟事實發見ノ爲

メ 証據ヲ集取スルニ在リ然ニ其處分中自由ニ他人ヲ
 シテ其場所ヲ出入セシムルキハ証據物件ヲ紛亂シ証
 人ハ離散シ頗ル防礙ヲ爲スコトアリ故ニ豫審判事ノ允
 許ヲ得サレハ何人ト雖モ其場所ニ出入スルコトヲ禁ス
 ルコトヲ得ルノ權ヲ與ヘテ以テ其處分ヲ容易ナラシメ
 タリ而テ之ヲ禁スルト否トハ豫審判事ノ見込ヲ以テ
 實際防礙ノ有無ニ因テ之ヲ定ム可キ者ナリ例ハ其場
 所ニ居合タル者ノ中ニハ証人トナル可キ者モアル可
 シ又共犯人モアル可シト見込ム場合ニ於テハ其場ヲ
 出テ去ルコトヲ禁シ又他ヨリ其場ニ入ラントスル者ア
 ルニ之ヲ入ルキハ其調ヲ他ニ漏シ又ハ私ニ証據物
 件ヲ脱漏スルノ恐アリト見込ム場合ニ於テハ其場ニ

入ルコトヲ禁スルノ類ナリ
 第一項ニ其出入ヲ禁スルノ權ヲ豫審判事ニ付與スル
 モ其制裁ナキキハ強テ出入スル者アルキハ其權遂ニ
 行ハレヌ故ニ第二項ニ於テ其制裁ヲ定メ其禁ヲ犯シ
 出入スル者アルキハ或ハ之ヲ逐斥シ或ハ其處分ヲ終
 ルニテ之ヲ其場所又ハ他ノ場所ニ留置スルコトヲ許ス
 ナリ然ルニ若シ暴行脅迫ヲ以テ強テ出入スルキハ此
 ノ公務ヲ行フ官吏ニ抗拒スル者ナリ刑法第三百十九
 條ニ依テ罰セラル可シ

一 檢証ノ場所ニ外人ノ出入ヲ禁スルノ解

〔一〕村田氏曰ク檢證臨檢ノ場所ニ衆人濫リニ出入スル時ハ
 或ハ證憑ヲ湮滅シ或ハ取調ニ關シ必要ナル者ト他ノ無

用ノ者ト混亂シ其處分ノ妨礙ヲ爲スニ勘カラス故ニ其處分ニ關係アル者ノ外ハ身分ノ如何ヲ問ハス豫審判事ノ允許ナクシテ一切濫入濫出スルコトヲ許サス若シ其禁ヲ犯シテ入ル者ハ之ヲ逐斥シ出ル者ハ其處分ノ結了スルマテ之ヲ留置スルコトヲ得其留置ハ一時權宜ノ處分ナルヲ以テ決シテ之ヲ刑ト混同ス可カラズ治罪法註釋第四卷第二十二條

○清浦氏曰ク前數條ノ處分中何人ト雖モ檢証ヲ爲ス場所ニ出入スルヲ禁スルモノハ見証人ノ散亂ヲ防キ証憑ノ湮滅ヲ阻ノ衆人ノ雜沓ヲ制シテ取調ヲ障礙セシメサルニ在リ況ンヤ檢証ノ場所ハ豫審ノ認廷ト看做シテ可ナリ然ラハ豫審ハ密行主義ナルヲ以テ固ヨリ衆人ヲシテ傍ニ居テ觀聽セシムルノ理ナシ第二百七十二條ニ曰ク

裁判長ハ公廷ニ於テ諸般ノ取締ヲ爲シ稱贊誹謗其他辨論ヲ妨害スル者アル時ハ之ヲ制止云々トアリ豫審判事檢証ノ場合ニ於テハ自ラ之ト同一ノ權ヲ有ス故ニ何人ト雖モ禁ヲ犯ス者アル時ハ之ヲ場外ニ逐斥シ又再三檢証ノ場所ニ入ラントスル者ハ處分ヲ終ル迄之ヲ他ノ場所ニ留置スルヲ得但其留置ハ犯禁ノ制裁トシテ施スノ刑ニハアラス佛治罪法第三十四條ト異ナリ隨聽隨筆第十號第五百六十五號

○横田氏曰ク檢証ノ場所ニ外人ノ出入ヲ禁スルノ處分治罪法註釋第二卷第百六十一條

一 檢証ノ場所ハ認廷ト假定スルコトヲ得ヘシ其出入ヲ禁スルハ見証人ヲシテ散亂セシメサルト衆人ヲシ

テ取調ヲ妨碍セシメサルニ在リ即チ第二百七十
二條ニ於テ裁判長ニ附與シタル權ト同視ス可キモ
ノトス

二 犯禁者ノ處分ハ之ヲ逐斥シ又ハ一時之ヲ拘留場若
シハ其他ノ場所ニ留置スルマテニテ別ニ刑ヲ言渡
スコトヲ得ス佛國治罪法第三十四條ノ規則ト同シカ
ラス

○井田氏曰ク臨檢家宅搜索ノ場合ニ於テ他人其場所ニ濫
入シテ處分ヲ妨ケ又ハ其場所ニ在ル者濫リニ離散シテ
立會ヲ爲サハルコトナシトセス此場合ニ於テハ入ル者ヲ
逐斥シ出ル者ヲ留置スルコトヲ得治罪法釋要
第八十一葉
○長井氏曰ク判事ニ前數條ニ記載スル處分ヲ施スニ當リ

其臨檢等ノ場所ニ犯罪ノ本人若クハ共犯人アルヘシト
思料シタルキハ其場所ニアル者ヲ離散スルコトヲ抑制シ
或ハ衆人會同スルヲ以テ外形ノ摸樣ヲ檢證スルノ障碍
ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ之ヲ解散セシムルコトヲ得ヘキ
モノトス治罪法註釋第
百五十八葉

○立野氏曰ク豫審判事檢證臨檢ノ場所ニ他人ノ出入ヲ禁
スルハ其處分ノ障碍ヲ爲スヲ防ク爲メノミナラス其出
入スル衆人中或ハ犯罪者ノ連累若クハ親族故舊等アツ
テ其證據ヲ掩蔽シ又ハ消滅スルノ恐アルヲ以テナリ故
ニ判事ノ允許ヲ得タル者ニ非サンハ其場所ニ出入スル
コトヲ許サス○若シ其禁ヲ犯シテ濫入スル者ハ之ヲ逐ヒ
斥ケ出ル者ハ其處分ヲ終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得之ヲ

留置逐斥スルハ其禁ヲ全カラシムルノ權ヲ與フルモノナリ治罪法註解第百八十五條第六條

○織田氏曰ク豫審判事ハ前ノ數條ニ掲ケタル處分中誰ニテモユルシヲ得スシテ其場所ニ出入スルヲ禁スルヲ得ルナリ若シ其禁ヲ犯ス者アルキハ之ヲ逐ヒ退ケ又ハ其處分ヲ終ル迄之ヲ留置クヲ得ルナリ○本條ハ前數條ニ記載シタル處分ヲ容易ニ行ハシムルヲ云フナリ判事ハ時ノ模様ニ依リ或ハ臨檢ノ場所ニ在ル者ノ離散ヲ抑ヘ或ハ之ヲ解散セシムルヲ得其離散スルヲ禁スルハ衆人中或ハ犯罪ノ本人若クハ共犯人アル可シト思料シタル時ニ在リ其盡ク解散セシムルハ外形ノ模様ヲ檢證スルニ止ルヲ以テ衆人ノ會集大ニ障礙ヲ爲ス可時ニ

在リ若シ判事ノ禁ヲ犯ス者アレハ之ヲ勾留シテ相當ノ刑罰ニ處ス可キナリ治罪法註解第百九十三條第四條

○詳解ニ曰ク〔問〕其場所ニ出入スルヲ禁スルハ如何ナル事實ノキニ於テシ如何ナル理由アルヤ〔答〕離散ヲ制スルハ即チ其場所ヲ出ルヲ禁スルナリ解放ヲ命スルハ即チ其場所ニ入ルヲ禁スルナリ蓋シ第一ノ場合ハ衆人中犯罪ノ本人若クハ共犯人又ハ見証人アルヘシト思料シタルキニ於テ行フヘキモノナリ第二ノ場合ハ犯人ノ親族故舊又ハ共犯人等陰ニ通謀シテ証據湮滅セシメ或ハ陰ニ証人ノ自由ヲ奪ヒ事實ヲ隱秘セシメントスル等ノ疑ヒアルキニ於テ命令スルモノナレハ二者共ニ尤モ必要ナルモノニテ苟モ輕視スヘカラサルモノナリ故ニ之ニ背

クモノアルキハ一ハ強テ之ヲ留置シ一ハ之ヲ逐斥スル
ヲ得セシムルモノトス 治罪法詳解第十
三號第十七八禁

○森氏曰ク臨檢ノ場所ニ他人入來リ又ハ其場所ニ在ル者
他所ニ出ルキハ證憑ヲ湮滅シ其他取調ヲ防碍スヘシ故
ニ豫審判事ハ時宜ニヨリ處分中何人ニ限ラス允許ナク
シテ其場所ニ出入スヘカラスト禁スルヲ得若シ其禁
ヲ犯シテ立入ル者アレハ之ヲ逐斥シ出ル者アレハ其處
分ヲ終ルマテ留置スルヲ得 治罪法註解大
成第百九禁

編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

第六十八條

豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢家宅搜
索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヲ得

(註)本條ハ臨檢家宅搜索ノ事ヲ治安判事ニ囑託スル規則
ヲ定ム豫審判事其管轄地ニ於テ臨檢家宅搜索ヲ爲ス
キハ自ラ之ヲ爲スヲ本則トス然レ豫審判事ノ人員ハ
多カラスシテ管轄ハ頗ル廣シ盡ク自ラ之ヲ爲サシム
ルキハ其人員足ラス且費用ヲ要スル少カラス故ニ其
地ノ治安判事ニ囑託スルヲ許ス而テ其屬託ヲ爲ス
ハ時宜ニ因ル者ニテ豫審判事ノ見込ニ在ルナリ其實
地ニ臨檢シテ場合ノ證據ニ因リ必証ヲ得可シト見込
ム場合ニ於テハ自ラ臨檢セサル可カラス然レ其家ニ
在ル或ル物件ヲ差押ヘ又ハ某家ノ形狀ノミヲ檢シ圖
ニ取ル如キ處分ナレハ之ヲ治安判事ニ囑託シテ爲サ
シムル等總テ豫審判事ノ見込ニ任スルナリ

第四十六號

明治十四年九月二十日
太政官布告

治罪法第六十八條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

(註)治安裁判所ト始審裁判所ヨリ其數多シト雖モ猶ホ未
タ全國ニ周到スルニ至ラス其廣キ十餘里ニ亘ル者アリ而テ警察署又ハ警察分署ハ之レニ比スレハ其數倍
從ノミナラス殆ント全國ニ周到スル者ナリ且郡區長
戸長ニ至ル迄司法警察官トナリタレハ其數頗ル多シ
故ニ本條臨檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ司法警察官ニモ
囑託スルヲ得ルノ便法ヲ定メタルナリ而テ治安判
事ニ囑託スルニモ右ニ説明スル如ク精神ヲ用フルニ

及ハサル事ニ限ル可キ者ナレハ司法警察官ニ囑託ス
ルモ亦最モ容易ナル事ニ限ラサル可カラズ且治安裁
判所ニ近キ所ハ之ヲ其治安判事ニ囑託シ治安裁判所
ニ遠ク司法警察官ノ所在ニ近キ所ハ之ヲ其地ノ司法
警察官ニ囑託スル等ハ豫審判事ノ見込ニ任スルナリ
一 檢証處分ヲ囑託スルノ解

〔一〕村田氏曰ク豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル
場合ニ於テ其管轄地内ナレハ路程ノ遠近ヲ問ハズ檢證
又ハ家宅搜索ノ爲メ自ラ其地ニ臨ム可キヲ正則トス然
レトモ必ス自ラ其地ニ臨マサルヲ得ストスル時ハ實
際ノ不便亦甚シ故ニ法律ニ於テ便宜ノ爲メ其事ノ輕重
難易其時ノ摸樣ニ從ヒ臨檢ス可キ場所ニ接近シタル治

安裁判所判事ニ臨檢家宅搜索ノ處分ヲ囑託スルヲ許
セリ治罪法註釋第四
卷第二十一葉

○清浦氏曰ク官吏ノ職權ハ管轄地外ニ及ハサルヲ以テ他
管ニ於テ臨檢家宅搜索ノ處分ヲ爲スヘキトキハ大小輕
重トナク悉ク之ヲ其地ノ判事ニ委任セサル可カラズ管
轄内ナレハ親ラ臨場スヘキナレハ實際ハ親ラ蒞臨スル
ト甚タ稀ナルヘシ故ニ事件ノ模様ニヨリ取調ヘキ廉ヲ
明示シテ臨檢スヘキ場所ヲ管轄スル治安判事ニ委任ス
ルヲ得○本條ノ處分ハ豫審判事ノ見計ヲ以テ之ヲ其
地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ許ス是レ別段ノ便法ヲ
以テ定ムル所ナリ但囑託ヲ受ケタル條件ニ付テハ判事
ニ代リテ處辨スヘキノ權義アルヲ以テ其爲シ得ラル

權域ト爲シ得タルノ效果トハ豫審判事ト毫モ異ナルコ
トナシ隨聽隨筆第十號第
五百六十六七葉

○横田氏曰ク職務ノ囑託治罪法講義第二卷
第百六十二三四葉

一 囑託スルヲ得ヘシ又ハ囑託スルヲ得ヘカラサ
ル職務

一 訊問檢證其他事實ヲ證明スルマテノ處分ハ之
ヲ囑託スルヲ得

二 命令及ヒ言渡ノ如キ裁判官自己ノ決定ヲ取ル
可キ眞ノ裁判權内ニ屬スル處分ハ猥リニ之ヲ
囑託ス可カラズ

二 囑託ス可キ官吏

一 捜査ノ處分ニ付テハ其幾部ヲ司法警察官ニ囑

託スルコトヲ得然レモ檢事ニ囑託スルコトヲ得ス
 二 豫審ノ處分ニ付テハ其一部ヲ治安判事又ハ他
 管ノ豫審判事治安判事ニ囑託スルコトヲ得
 三 囑託ヲ受ケタル豫審判事ハ更ニ其地ノ治安判
 事ニ囑託スルコトヲ得

三 囑託ス可キ場合

一 官吏ノ職權ハ管轄地外ニ及ハサルノ原則ニ依
 リ他ノ管轄地内ニ於テ取調ヲ要スルキハ必ス
 其地ノ管轄官吏ニ囑託ノ事件ヲ明示シテ其處
 分ヲ求ム可シ
 二 管轄地内ニ於テ囑託ス可キ場合ハ裁判所外ニ
 テ取調ヲ爲ス可キ事件ニ限ル第一判事差支ノ

爲メ第二費用省減ノ爲メナリトス

○井田氏曰ク豫審判事ノ管轄地内ト雖モ判事自カラ臨檢
 家宅搜索ヲ爲スコトヲ必要トス事件重大ナラス且其處分
 ヲ爲ス可キ場所遠隔スル時ハ治安判事ニ囑託スルコトヲ
 許ス治罪法釋要
第八十二條

○長井氏曰ク本條ハ臨檢搜索ノ事柄輕易ニシテ下等法官
 アリテ其職ヲ行フヲ得ヘキトハ敢テ豫審判事親ヲ爲ス
 ヲ要セサルヲ云フ治罪法註釋第
百五十九條

○立野氏曰ク本條ハ檢證家宅搜索處分ニ付キ便宜ノ爲メ
 ニ設クル所ノ規則ナリ豫審判事臨檢シ難キノ場合アル
 カ又ハ其他ノ都合ニ依リ差支ナキト認ムル時ハ其處分
 ヲ臨檢搜索ノ場所ニ接近スル治安裁判所判事ニ囑託ス

ルヲ得ヘシトス 治罪法註解第百八十六第七葉

○織田氏曰ク豫審判事ハ自己ノ管轄スル地内ニテモ賤ノ
摸樣ニ由リ犯所臨檢家宅吟味ノ事ヲ其地ノ違警罪裁判
所判事ニ委任スルヲ得ルナリ○本條ノ規則ハ第百二
十四條第二項ニ定ムルモノト異ナルヲナシ蓋シ法律ノ
意タル臨檢搜索ノ場所ニ接近スル裁判官アリテ其職ヲ
行フヲ得可キモ猶ホ豫審判事ヲシテ職務ヲ行ハシムル
爲メ徒ニ遠ク其地ヲ離レシムルヲ命セサルナリ 治罪法註
釋第百九
十四五葉

○詳解ニ曰ク豫審判事ハ自己ノ管轄地内ニ於テノ家宅搜
索又ハ臨檢處分ハ必ス自ラ之ヲ爲スヘキノ規則ナリト
ス〔他〕ノ管轄ニ涉ルキハ第百二十五條ニ從〔然〕レモ法律ハ

豫審判事ノ事務頗ル繁劇ナルヘキヲモ慮リ且其臨檢
若クハ家宅搜索ヲ爲スヘキ場所ノ接近ニ下等ノ法官ア
リテ而モ其職務ヲ行ハシムルニ足ルト思料スルキト雖
モ尙ホ必ス遠ク其地ヲ離レシムルヲ命スルヲ欲セス
是レ本條ノ設アル所以ナリ○〔問〕治安判事ハ司法警察官
ノ一部トスルヲハ本法ノ定ムル所ナリ然ルニ此治安判
事ヲシテ臨檢又ハ家宅搜索ヲ受托セシムルヲ得ルハ抑
モ何ノ謂ソヤ〔答〕治安判事ヲシテ司法警察官ヲ兼テシム
ルノ利害ハ既ニ第六十條ノ條下ニ就テ説明スル所ナリ
而シテ本條之カ嘱托ヲ得セシムルハ司法警察官ノ身位
ニ付テ爲スニアラス治安判事即チ法官ノ職務ニ付テ之
レカ嘱託ヲ爲スモノナリ故ニ茲ニ治安判事カ司法警察

官ヲ兼ヌルノ例ヲ以テ之ヲ論スルハ積其當ヲ失スルモ
ノニアラスシテ何ソヤ治罪法詳解第十
三號第十八八九號

○森氏曰ク豫審判事ハ其管轄地内ナレハ自ラ臨檢スルヲ
以テ正則トスレモ時宜ニヨリ事ノ難易輕重ニ從ヒ臨檢
家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安裁判所判事ニ囑託スルコトヲ
得其囑託ヲ受ケタル治安判事ハ豫審判事ノ代理トシテ
豫審判事ニ屬スル職權ヲ以テ其處分ヲ爲ス可シ治罪法註
解大成第
百十
葉

編者曰ク右諸氏ノ説允當ナリ

第百六十九條

豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞
電信鐵道ノ官署諸會社ハ其事由ヲ通知シ被告人又ハ

豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若シクハ是等ノ者ニ對シ
發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取り開披スルコトヲ得
但受取證書ヲ渡ス可シ
前項ノ書類物件不用ニ屬シタル時ハ其官署又ハ會社
ニ還付ス可シ

(註)本條ハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ヨリ書類電報物件
ヲ受取り開披スル規則ヲ定ム豫審判事ハ被告人ヨリ
他人ニ對シ發スルカ又ハ他人ヨリ被告人ニ對シ發シ
タル書類電信又ハ物件ニシテ其事件ニ關係アリ之ヲ
差押ヘテ開披スルキハ事實ヲ發見スルニ必要ナリト
見込ムキハ其事由ヲ驛遞局電信局鐵道局及ヒ通運會
社三菱會社等ニ通知シ其書類物件等ヲ受取り之ヲ開

披スルコトヲ得但其紛亂ヲ豫防スル爲メ受取証書ヲ渡
 サル可カラズ而テ法律上此權ヲ豫審判事ニ與ヘタ
 ル者ナレハ右ノ官署諸會社ハ其通知アレハ何レノ場
 合ト雖モ之ヲ渡ズコトヲ拒ム可カラズ
 又豫審ニ關係アル者ヨリ他人ニ對シ發シ又他人ヨリ
 其關係アル者ニ對シ發シタル書類物件モ亦同シク之
 ヲ受取リ開披スルコトヲ得然ニ其豫審ニ關係アル者ト
 ハ何人ヲ指スカ法文明瞭ヲ欠クト雖モ濫ニ之ヲ汎濶
 ノ意ニ解ス可カラズ其事件ニ付既ニ嫌疑ノ屬スル者
 ト解ス可シ例ハ未タ被告人トハ爲ラサレモ共犯又ハ
 連類及ヒ附帶ノ犯罪者タル者及同一事件ニ付キ會テ
 訴ヲ受ケ其証憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受

ケタル者ノ類ヲ謂フ
 前項ノ書類物件ヲ沒収ス可キ者及ヒ公判ニ廻ス可キ
 者ヲ除クノ外取調相濟ニ不用ニ屬シタルモノハ初ヨリ
 受取リタル官署又ハ會社ニ還付ス可キ者ナリ然モ沒
 収ス可キ者及ヒ公判ニ廻ス可キ者ハ其儘公判ニ移シ
 テ公判濟ノ上ニテ書記ヨリ之ヲ還付ス可ク復タ豫審
 判事ノ手ヲ經ルニ及ハサルナリ

(理)豫審判事事實發見ノ爲メ書類物件ヲ差押フルコトハ已
 ニ前數條ニ定ムル所ナリ而テ本條ニ於テ殊ニ又之ヲ
 記スル所以ハ如何ノ夫ノ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社
 ニ附托スル所ノ書類物件ハ最モ世ノ信憑ヲ維ク厚キ
 者ニテ他人ヲシテ決シテ之ヲ開披セシム可カラズ就

中郵書電報ノ如キ信書ハ最モ秘密ヲ要スル者ニシテ
 家宅不侵ノ原則ト併行フ所ノ者ナリ何人ト雖モ之ヲ
 侵ス可カラズ然リト雖モ犯罪事件ノ事實發見ノ爲メ
 必要ナルキハ豫審判事ノミ之ヲ開披スルコトヲ許セリ
 故ニ本條ニ於テ別ニ此規則ヲ設ケタルナリ蓋シ信書
 秘密ノ原則ハ歐米各國皆之ヲ重スル者ナリト雖モ犯
 罪事件ニ付必要ナルキハ豫審判事ニハ之ヲ開披セシ
 メサル可カラズ故ニ明ラカニ法文ニ之ヲ定ムルアリ
 又暗ニ實際ニ之ヲ許スアリ亦止ムヲ得サルニ出ルナ
 リ若シ犯罪事件ニ付關係アリト見込ムト雖モ嚴ニ其
 開披ヲ禁スルキハ信書秘密ノ原則ハ益鞏固ナル可シ
 ト雖モ之レカ爲メ又公益ヲ害スルノ弊ヲ生ス可シ國

事犯其他貨幣偽造ノ如キ重大ナル罪ヲ犯サントスル
 者ハ或ハ郵便ニ依リ或ハ電報ニ頼リ以テ其陰謀密策
 ヲ通シ以テ大罪ヲ犯スニ至ラン然レモ公益保護ノ爲
 メ重ノスル所ノ信書秘密ノ則原ハ却テ公益ヲ害スル
 犯罪ノ媒介ト爲ル可シ是ヲ以テ止ムヲ得テ犯罪ニ關
 係アルキハ之ヲ開披セシメサル可カラサルナリ故ニ
 我國ニ於テモ本條ニ之ヲ明記シテ豫審判事ニ開披ノ
 權ヲ與ヘタリ然レモ此レ非常ノ變法ナレハ容易ニ之
 ヲ開披ス可カラズ事實發見ニ最モ必要ナル場合ニ限
 ル可シ就中豫審ニ關係アル者ヨリノ送答スル信書ノ
 如キハ別テ注意セサル可カラズ

一 郵書電信等ヲ押収開披スルノ解

〔一〕村田氏曰ク人身自由家宅不侵ノ原則ト同ク書翰ノ秘密ハ侵ス可カラサル者トス然レトモ治罪ノ爲メ已ムコトヲ得サル處分ニ付テハ必スシモ此原則ニ因リ難キコトアリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ被告人ヨリ他人ニ對シテ發シ又ハ他人ヨリ被告人ニ對シテ發シタル書類電報物品ノミテラス豫審ニ關係アル者ヨリ他人ニ對シテ發シ又是等ノ者ニ對シテ他ノ者ヨリ發シタル書類電報物品ト雖モ豫審判事ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ諸局又ハ海陸運漕ノ諸會社ニ其事由ヲ通知シテ之ヲ受取開披スルヲ得是等ノ官署又ハ會社ニ通知セヌシテ濫リニ受取開披スルハ專横ノ處分タルヲ免レヌ受取證書ヲ渡ス者ハ其事ヲ確實ニシ且官署

又ハ會社ノ責任ヲ免レシムル爲メナリ○豫審終結ニ至ルカ又ハ公判落着アリタルニ依リ前ニ受取リタル所ノ書類物件不用ニ屬シタル時ハ官署又ハ會社ニ之ヲ還付ス可キ者トス治罪法註釋第四卷第二十三葉

○清浦氏曰ク書翰ノ秘許シ可カラストノ原則ハ家宅不侵ノ原則ト並行セラルヘキモノナリ然レモ治罪ノ爲メ已ムコト得サル場合ニ於テハ所謂彼ノ一人ノ私益ハ社會ノ公益ニ讓ラサルヘカラストスノ原則ニ基キ証憑トナルヘキモノト認メタルトキハ之ヲ差押ヘ時宜ニヨリテハ其秘ヲ許シモ亦妨クナシ併シ此權ハ獨リ豫審判事ノミ有スル處ナリ被告人ノ家宅ニ藏スル書類差押ノコトハ第六十四條ニ於テ之ヲ許セリ本條ハ其權ヲ擴張シテ官署

又ハ會社ニ遊モ及スヲ得ルノ權ヲ與ヘタルモノナリ
 ○本條ノ處分タル多クハ國事ニ關スル罪即チ内亂外患
 ニ關スル罪○靜謐ヲ害スル罪即チ兇徒聚衆ノ罪○信用
 ヲ害スル罪即チ貨幣ヲ偽造スル罪等ニ付テ施ス所ノ方
 法ナリトス○官署又ハ會社ヨリ受取開披スルヲ得ヘ
 キ書類ハ被告人ニ名宛テシタルモノ又ハ被告人ノ名ヲ
 以テ發シタルモノ又ハ是等ノ者ノ暗號等ヲ用ヒタルモ
 ノニ係ル勿論ナリト雖モ豫審ニ關係アル者ヨリ發シタ
 ルモノモ亦差押フルヲ得豫審ニ管係アル者トハ檢事民
 事原告人民事擔當人ヲ指稱スルカ如クナレハ蓋シ否ラ
 サルヘシ何トナレハ是等ノ者ノ發シ又是等ノ者ニ對シ
 發シタル書類等ヲ差押フルノ理ナク又之ヲ差押フルノ

必要ヲ見ス豫審ニ關係アル者トハ未タ被告トハ爲ラサ
 レハ嫌疑ヲ受ケタル者即チ連類ノ如キ者ヲ指スノ精神
 ナリ之ヲ認ムルハ豫審判事ニ在リ○官署又ハ會社ニ於
 テハ正當確實ナル理由アルニアラサレハ書類物件ノ引
 渡ヲ拒ムヲ得ス何トナレハ豫審判事ノ法律ニ從ヒ爲ス
 所ノ處分ヲ拒ムハ是レ公益ヲ妨クルモノナリ其官署會
 社ニ於テハタトヒ遞送遲延シテ定時ヲ過ルヲアルモ此
 場合ニ於テハ其責ニ任スルニ及ハス○不用ニ屬スルト
 ハ既ニ調濟トナルカ又ハ一旦差押ヘタルモ別ニ不都合
 ヲ見サル場合等ヲ云フ○書類等ヲ差押ヘラレタル者ハ
 後日免訴ノ言渡ヲ受ケタルモ遞送遲延ヨリ生スル損害
 ノ償ヲ豫審判事ニ請求スルヲ得ス第十七條參看スヘシ

隨聽隨筆第十號第五百六十八、九、七十、七十一葉

○横田氏曰、書類ヲ開披スルノ理由治罪法講義第二卷第百六十四、五、六、七葉

- 一 書類ノ秘密ハ家宅不侵ノ權利ト並立ス可キモノニシテ之ヲ開披スルニ付テハ最モ鄭重ヲ加ヘサル可カラズ蓋シ書類ヲ開披スルハ秘密ヲ許クノ旨趣ニ非ラズ證據ヲ差押フルノ處分ナリトス
- 二 搜索權ノ書類ニ及フ可キコトハ第六十條第百六十條ニ於テ之ヲ許シタリ然レモ本條ハ其旨趣ヲ擴張シテ搜索權ハ公然郵便ノ取扱ヲ以テ職トスル官署若クハ會社ニモ及フ可キコトヲ定メタルモノトス蓋シ假令官署又ハ會社ノ保護物件ト雖モ公益ニ悖戻ス可キ特權ヲ有スルモノニ非ス

差押ヲ爲スコトヲ得ヘキ書類

- 一 被告人ヨリ外人ニ對シ發シタル書類又ハ外人ヨリ被告人ニ對シ發シタル書類ヲ差押フルニハ別段困難アルコトナシ何トナシハ既ニ被告人ノ氏名アルハ之ヲ差押フルコトヲ得ヘキモノタルノ推測アリトス
- 二 豫審ニ關係アル者ヨリ外人ニ對シ發シタル書類又ハ外人ヨリ豫審ニ關係アル者ニ對シ發シタル書類ニ付テハ頗ル注意セサル可カラズ本條豫審ニ關係アル者トアレバ如何ナル者ヲ以テ豫審ニ關係アル者トスルコトヲ定メス蓋シ被告事件ノ正犯從犯及ヒ附帶ノ犯罪タル可キ嫌疑アル者ヲ包含シタル者トス其嫌疑アル者トスルニハ之ヲ認ム可キ充分ナル

推測アルヲ要ス

三

被告人又ハ豫審ニ關係アル者偽名又ハ暗號ノ書類
電報ヲ用ヒタリト雖モ之ヲ用ヒタル充分ノ推測ア
ルキハ亦差押ノ處分ヲ爲スヲ得

書類電報其他物件差押ノ手續

一

豫審判事ハ嫌疑アル事由ヲ官署又ハ會社ニ通知シ
書類又ハ其他ノ物件ヲ受取リ檢事ノ立會ニ依リ調
書ヲ作ル可シ但其調書ニハ證據トナル可キヲ外
書類ノ文意ヲ寫シ取ル可カラズ是等ノ處分ハ成ル
可シ書類物件ヲ受取ル可キ者若クハ之ヲ發シタル
者ノ立會ニ依リ之ヲ爲シ且第百六十五條ニ從ヒ被
告人ニ示シテ辨解ヲ爲サシム可シ

二

如何ナル場合ニ於テモ開披シタル書類物件ハ取調
ノ上ニテ即時ニ封印ス可シ若シ其書類物件留置シ
可キモノニ非ラス又ハ一旦留置キタル後不用ニ属
シタルキハ檢事ノ意見ヲ聞キ之ヲ官署又ハ會社ニ
還付シ若クハ其差出人又ハ受取人ニ交付シ其旨ヲ
官署又ハ會社ニ通知ス可シ

○井田氏曰ク通信ノ秘察ハ容易ニ侵ス可カラサル者ナリ

ト雖モ治罪上必要ナリトスルキハ書類電報又ハ物件ヲ
開披スルヲ許ス是レ又已ムヲ得サルニ出ル者トス

治罪法釋
第八十二條

○長井氏曰ク本條ハ豫審判事事實ヲ發見ノ爲メ郵便局電
信局鉄道局其他陸運海漕會社等ノ諸會社ニ通知ヲ爲シ

被告人又ハ既ニ嫌疑アル者ヨリ差出シ或ハ是等ニ宛テ送リタル郵書電報書類其他ノ物件ヲ受取リ之ヲ開披シテ檢閲スルコトヲ得ルヲ云フ○受取證書ヲ渡スハ其信書及ヒ物件ヲ交付シタル官署會社ノ責任ヲ解クモノトス

治罪法註釋
第百六十條

○立野氏曰ク本條ハ豫審判事ニ於テ被告人又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ是等ノ者ニ對シ他ヨリ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スル處分ヲ示ス而テ郵書電報ヲ開披スルハ固ト重大ノ事件ナルヲ以テ容易ニ其權ヲ行フヘカラス必ス事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ニ限リ其事由ヲ驛遞電信鐵道ノ諸局若クハ郵便氣船通運其他ノ諸會社ニ通知シテ之ヲ受取開披スルコトヲ

得蓋シ通信ノ秘密ハ侵ス可カラサルモノト雖モ社會ノ公權及ヒ正理ト相悖戻スルニ於テハ之ヲ一箇ノ權利ナリト爲ス可カラズ故ニ法律ニ在テハ廣ク豫審ニ關係アル者ニ對シ右ノ處分ヲ爲スコトヲ許セリ此點ニ付テハ一ニ判事ノ所見ニ信任ス但判事受取證書ヲ渡スハ諸局又ハ會社ノ責任ヲ解カシメシメカ爲メナリ○豫審中又ハ公判後ニ至リ信書物件不用ニ屬シタル時ハ最初受取リタル所ノ諸局若クハ會社ニ之ヲ還送ス可キモノトス

解第百八
十七八條

治罪法註釋

○織田氏曰ク豫審判事ハ事實ヲ見出ス爲メ必要ナリトスルキハ驛遞電信鐵道ノ役所又ハ諸會社ニ其事柄ノ理由ヲ告ク被告人又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ是

等ノ者ニ向ケテ發シタル書狀電報又ハ品物ヲ受取リ開
 披トテ開クヲ得ルナリ但シ受取ノ證書ヲ記シテ與フ
 可キナリ○前項ニ掲ケタル書狀電報類並ニ品物不用ニ
 ナリタルキハ其之ヲ受取リタル官署又ハ會社ニ還シ與
 フ可キナリ○本條ニ定メタル權利ハ重大ノ事件ナルヲ
 以テ容易ニ行フ可カラスト雖モ通信ノ秘密若シ其社會
 ノ公權並ニ正理ニ相悖戻スルキハ之ヲ認メテ犯ス可カ
 ラサルモノト爲ス可カラズ法律ニ於テ廣シ豫審ニ關係
 アル者ニ對シ右ノ處分ヲ爲スヲ許ス乃チ現ニ被告人ト
 ナリタル者ニ對スルノミナラス又既ニ嫌疑ヲ受ケタル
 者ニ對シ猶ホ此處分ヲ爲スヲ得蓋シ此點ニ付テハ一ニ
 判事ノ所見ニ信委スルナリ判事ノ受取證書ヲ渡スヲ要

スルモノハ信書又ハ其他ノ品物ヲ判事ニ交付シタル官
 署並ニ會社ノ責任ヲ解カシメメナリ 治罪法註釋第二
 百九十五六葉
 ○詳解ニ曰ク信書若クハ電報等ヲ開披スルコトハ重大ノ事
 件ニシテ之ヲ侵ス可カラサルハ猶ホ彼ノ家宅ノ侵スヘ
 カラサルト理ヲ同フスルモノナリ然レモ治罪ノ爲メ必
 要ナリトスルキハ之ヲ驛遞電信若クハ鐵道ノ官署ヨリ
 受取之カ開披ヲ爲スコトヲ許スハ即チ時トシテ公益ヲ先
 ニシテ私利ヲ後ニセサル可カラサルノ止ムヲ得サルニ
 出ルモノナリ是レ本條ヲ立ルノ理由トス○問「被告人又
 ハ豫審ニ關係スルモノトノ假定ハ一ニ豫審判事ノ思想
 如何ニ任スルノ趣意ナリヤ」答「然リ然ト雖モ豫審判事ハ
 此處分ニ付テハ苟モ輕忽ニ失ス可カラサルコトヲ注意セ

サルヘカラス蓋シ通信ノ秘密ヲ害スルノ權ハ其社會ノ公權及ヒ正理ト相悖戻セサル間ニ存スル者ナレハ若シ其一着ヲ誤ルキハ法律ノ本意ニ違フモノニシテ其害ヤ最モ太シキモノナレハナリ○〔問〕受取證書ヲ渡ス理由如何〔答〕信書又ハ其他ノ物件ヲ交付シタル官署及ヒ諸會社ヲシテ法律ニ從ヒ豫審判事ノ通知ニ依リ之ヲ交付シタルヲ証明シ其責任ヲ解脱セシメノイヲ欲スルニ由ルナリ治罪法詳解第十三號第十九、二十葉

○森氏曰ク凡ソ他人ノ書翰等ハ決シテ之ヲ開披スルヲ得スト雖モ犯罪ノ事實ヲ發見スルニ必要ナリト見込ムキハ豫審判事ヨリ譯遞電信鉄道ノ官署及ヒ會社ニ其事由ヲ通知シ被告人其他豫審ニ關係アル者ヨリ發シ又ハ

他人ヨリ此等ノ者ニ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取リテ開視スルヲ得但シ之ヲ受取リタルヲ證セシカ爲メニ受取證書ヲ其官署又ハ會社ニ渡ス可シ○其書類物件既ニ不用ニ屬スルキハ其官署又ハ會社ニ返却ス可

シ治罪法註解大成第百十葉

編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

治罪法異同辨第五十二號

堀田 正忠

同緝

高谷恒太郎

第六節 証人訊問

○清浦氏曰証人トハ被告人及被害者ノ平素ノ性質行狀
犯罪前後ノ摸樣及犯罪ヲ目撃シタル時ハ其摸樣ヲ知
ル者等是レナリ証人ニ二種アリ一ヲ宣誓ヲ爲ス証人
トシ一ヲ宣誓ヲ爲ササル証人即チ事實參考ノ爲メ陳
述ヲ聽クヘキ証人トス第百八十一條第百八十二條ニ
記載シタル者ハ事實參考ノ爲メノ証人ニシテ其他ノ
者ハ宣誓ヲ爲スヘキ証人ナリ蓋シ法律上ニ於テハ宣
誓シタル人ハ信スヘキ者ニシテ其之ヲ爲ササル者ハ

信ノ薄キ者ヨリ併シ裁判上ニ於テ其陳述ヲ判決ノ資
 料ニ供スルト否トハ判事ノ心證ニ在リ○民事原告人
 及民事擔當人ハ勿論被告人ト雖モ罰金ノ刑ニ該ルヘ
 キ時ハ代人ヲシテ出廷セシムルヲ許ス然ルニ證人
 ニハ代人ヲ用フルヲ許サズ是レ其人ニ非サレハ眞實
 ヲ證シ能ハサルヲ以テナリ隨聽隨筆第十號第
 五百七十七、八葉

○横田氏曰ク證人訊問ノ解治罪法講義第二卷
 第百六十七、八葉

一 證ニ三種アリ第一證據第二徵憑第三事實參考ノ
 事物蓋シ證ノ輕重厚薄ニ因テ之ヲ名ク證人ニ二
 種アリ第一宣誓ス可キ者第二宣誓ス可カラサル
 者蓋シ證人ノ身分及ヒ其能力ノ強弱ニ因テ之ヲ
 定ム故ニ宣誓スルト否トハ證人タル効力ニ輕重

厚薄アリト雖モ其證ノ輕重厚薄アルニ非サルナ

二 證ノ輕重厚薄ハ證人タル効力ノ輕重厚薄ハ裁判
 官ノ心證ニ供スル表面ノ輕重厚薄ニシテ必スシ
 モ其心證ヲ惹起スルニ付テ輕重厚薄アルニ非ラ
 カルナリ

三 犯罪前後ノ摸樣被告人被害者平素ノ品行又ハ犯
 罪ヲ目撃シタル者アル時ハ其摸樣ヲ詳悉スルハ
 証人ナルヲ以テ其証ヲ聽クヤ最モ易ク其証ヲ得
 ルヤ最モ益アルモトス

四 鑑定人通事等ニ比スレハ證人ニ對スル處分ハ頗
 ル嚴ナルモノアリ蓋シ鑑定人通事タル可キ者ノ

如キハ必スシモ其人ニ限ラズ然レモ証人タル可
キ者ノ如キハ其人ヲ棄テ他ニ求ム可キ者ナシ即
チ証人ナクテハ犯人ナシト云フモ可ナリ故ニ社
會ニ對スル証人ノ義務ハ鑑定人通事等ヨリモ願
ル重大ナリトス

編者曰ク右諸氏ノ説允當ナリ

第七十條

豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシ
テ指名シタル者ヲ呼出ス可シ
原告證人被告證人ノ員數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ
從ヒ又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思料スル者輕罪事件
ニ付テハ各五名重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限り先ツ

之ヲ呼出ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時
ハ此限ニ在ラス

又原被ノ指名セサル者ト雖モ豫審判事ノ職權ヲ以テ
證人トシテ之ヲ呼出ス可シ得

(註本條ハ証人トシテ呼出ス可キ者及ヒ其員數ノ制限ヲ
定ム豫審判事ハ檢事民事原告人被告人ヨリ指名シタ
ル証人ハ必ス之ヲ呼出シ訊問セサル可カラズ
檢事ハ公訴ニ付キ証人ト爲ル可キ者ヲ指名ス可シ民
事原告人ハ私訴ニ付キ証人ト爲ル可キ者ヲ指名ス可
シ被告人ハ公訴私訴ニ付キ自己ノ利益ト爲ル可キ者
ヲ指名ス可シ
原被告人ヨリ求メタル証人ハ之ヲ喚問スル本則ナレ

凡悉ク之ヲ呼出ス時ハ其員數頗ル夥多ニ至リ中ニハ無益ノ証人アリ爲メニ時日ヲ遷延シ費用ヲ嵩ムノ弊アリ且豫審判事ハ公判判事ト異ナリ取証ノ全權ヲ有スル者ナルヲ以テ其指名シタル証人ヲ制限スルコトヲ許ス

故ニ其員數夥多ナル時ハ原告被告ヨリ指名シタル順序ニ從ヒ又ハ其順序ニ拘ハラヌ最モ事實ヲ知ル可シト思料シタル者ヲ輕罪事件ニ付テハ各五名重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限リ先ツ之ヲ呼出ス可シ各五名又ハ各十名トハ原告証人ト被告証人トヲ各五名又ハ各十名ト謂フノ意ニシテ原告人ノ中ニハ檢事ト民事原告人ヲ包含スル者ナリ之ヲ再言スレハ輕罪事件ニ付

テハ原被ノ証人合セテ十名重罪事件ニ付テハ原被ノ証人合セテ二十名ニ限ルト謂フノ意ナリ

右ノ如ク制限ヲ爲スト雖モ其定數外ノ証人ヲ呼出サレハ事實ヲ發見スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其制限ヲ超過シテ之ヲ呼出スコトヲ許ス此レ豫審判事ノ見込ニ任スルナリ

豫審判事ハ取証ノ全權ヲ有スル者ニテ只原被ヨリ差出シタル証憑ノミニ付キ事ヲ斷スル者ニ非ラス故ニ原被ヨリ指名セサル者ト雖モ事實發見ニ必要ナル者ハ職權ヲ以テ証人トシテ之ヲ呼出スコトヲ許シタリ

一 原被ヨリ指名ノ証人喚問及ヒ証人制限ノ解

二 豫審判事職權ヲ以テ証人ヲ喚問スルノ解

〔二〕村田氏曰シ證人ヲ陳述ハ裁判官ノ由テ以テ必證ヲ資リ
 又事實ヲ推測スルノ材料ト爲ル可キ者トス抑々證人ト
 爲ルコトヲ得可キ者ハ特ニ犯罪ヲ目撃シタル者ニ限ラス
 犯罪前後ノ摸樣及ヒ被告人ノ素行ヲ熟知スル者ヲ證人
 トシテ訊問スル時ハ事實ヲ發見スルニ於テ大ニ裨益ア
 ラシ是ヲ以テ豫審判事ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ證人
 トシテ指名シタル者ヲ呼出シ之ヲ訊問ス可シ其原被ノ
 指名セサル者ト雖モ職權ヲ以テ之ヲ呼出スコトヲ得○原
 被ノ指名シタル證人夥多ニシテ悉ク之ヲ呼出ス時ハ翻
 テ冗費ヲ増シ且審理ノ遷延ヲ致ス可シト思料スル場合
 ニ於テハ輕罪事件ナレハ原告證人五名被告證人五名又
 重罪事件ナレハ各十名ヲ限リ之ヲ呼出シ其訊問ヲ終リ

タル後餘ノ證人ヲ呼出スコトヲ得治罪法註釋第四卷第二十三條

○清浦氏曰ク

豫審又ハ公判ニ付證人ヲ呼出サント請フ者アル時ハ裁判
 所ニ於テ其放費日當等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシム
 ハシ○若シ被告ハ放費日當ヲ豫納スルハ資力ナキ時ハ治罪法
 第百七拾條ハ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置クハシ證人ハ
 原被兩造ヨリ各自ノ利益即チ其執持スル所ヲ鞏固且明
 白ナラシムル爲メ證言ヲ要スルモノナレハ誰某ト指名
 シテ呼出方ヲ裁判所ニ請求スヘキモノトス原告又ハ被
 告ヨリ證人タルヘキ者ヲ指名シテ呼出ヲ請求シタルト
 キハ判事ノ職權ヲ以テ擅ニ之ヲ取舍増減スルヲ許サス
 是レ原被ノ利害ヲ審明スルニ偏重偏輕ノ弊アラントヨ
 恐ルレハナリ然レハ一事件ニ付キ證人ノ員數夥多ニシ
 テ悉皆之ヲ喚出セハ徒ニ冗費ヲ嵩ミ混雜ヲ招クノミナ
 ラス其陳述スル所モ亦大同小異ナキトスルトキハ

其中ニ於テ先ツ第一着ニ格別能ク事情ヲ知得スヘシト
 ナル者ヲ輕罪事件ニ付テハ原告證人ヲ五名被告證人ヲ
 五名又重罪事件ニ付テハ原被告兩造ノ分各十名ヲ限リ之
 ヲ喚出スヘシ但事實ヲ發見スルタメ證人タルヘキ者總
 員ノ陳述ヲ聽キ又ハ彼此對質ヲ爲スヲ要スル場合ニ於
 テハ此制限ニ拘ハルヲ要セス 隨聽隨筆第十號第
 五百七十九、八十號

〇横田氏曰ク證人タル可キ者ヲ定ムル方法 治罪法講義第二卷
 第百六十九、七十號

一 豫審ニ於テハ公判ノ如ク證人ヲ差出スノ法式アル
 ナシ然レモ檢事其他訴訟關係人ヨリ書類又ハ口
 述ヲ以テ何某ハ云々ノ證人タリトノ申立アリタル
 時ハ之ヲ聽カサル可カラズ
 呼出ス可キ證人ノ員數ヲ定ムルノ事由

一 本條第二項ハ證人タル可キ員數ノ制限ニ非ラスシ
 テ呼出ノ費用ト手數トノ制限ナリトス立法官ノ主
 義ハ但書ヲ以テ分明ナルヘシ

二 本條第二項ノ規則ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ指名
 シタル證人ノミニ限ラサル可シ畢竟費用ト手數ト
 ノ制限ハ豫審判事ノ職權ヲ以テ呼出ス可キ證人ニ
 付テモ亦之ヲ遵守セサルヲ得ス且證人ヲ呼出スニ
 指名ノ順序ニ順フハ最も事實ヲ知リタル者ヲ推測
 スルヲ能ハサル場合ニ限ル何トナレハ証憑ヲ集取
 スルノ處分ニ付テハ豫審判事訴訟關係人ノ申立ニ
 拘束セラルヘシナカル可シ
 〇井田氏曰ク檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ

指名シタル者夥多ナル時ハ一時ニ皆之ヲ呼出シ訊問ス
 ルヲ得ス故ニ事件ノ輕重ニ從ヒ原被ハ証人五名ツ
 又ハ十名ツハ先ツ呼出シ其訊問ヲ爲シタル後餘ノ証
 人ヲ呼出ス可シ○證人ト爲ル可キ者ハ特ニ犯罪ヲ目撃
 シ又ハ聞知シタル者ニ限ラス犯罪前後ノ模様ヲ知り又
 ハ被害人之素行ヲ知ル者ハ皆證人トシテ訊問ス可シ若
 シ然ハ大ニ事實ヲ得ルコトアラバ治罪法釋要第
八十二三葉
 ○長井氏曰ク罪ノ種類ニ因リ原被証人ノ員數ヲ制限スル
 モノハ若シ其請求ニ應シ夥多ナル証人ヲ呼出スキハ隨
 テ冗費ヲ増殖シ審問ノ遷延ヲ致ス等ノ患ナカラシメ
 ト欲スルヲ以テナリ然レ共事實發見ノ爲メ限制ス可カ
 ラサル場合ニ於テハ右ノ員數ヲ超過スルモ妨ケナシ治罪

法註釋第百
六十一葉

○立野氏曰ク本條以下第九十條ニ至ル二十條ハ証人訊
 問處分ノ事項ヲ示スモノナリ○証人ノ供述ハ裁判上最
 モ得易ク且最モ有用ナルモノナリ其証人ト爲ルヲ得再
 キ者ハ被告事件ヲ目撃シタルハ勿論其事件ニ關スル前
 後ノ模様及ヒ被告人ノ素行ヲ熟知スル者被告人ノ比隣
 ニ住居スル者等ニシテ凡ソ犯罪ノ徵憑事實ノ推測ヲ惹
 起スルモノトス又場合ニ依リ被告人ノ品行ニ付キ訊問
 ス可キノ証人アル可シ又被告人ノ申立ヲ監察シ其虛實
 ヲ證スルモ亦外人ノ證言ニ由ラサル可カラス故ニ豫審
 判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ指名
 シタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲ス可シ○原告被告ノ指名シ

タル證人ノ員數夥多ナル時ハ其指名ノ順序ニ從ヒ又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思量シタル者ノ内輕罪事件ニハ原被告各五名重罪事件ニハ各十名ヲ限リテ之ヲ呼出シテ訊問ス可シ而シテ又原被告ノ申立ナクモ判事ノ職權ヲ以テ證人ヲ呼出スヲ得治罪法註解第百八十九、九十條

○織田氏曰ク豫審判事ハ檢事民事原告人即チ賠償返還ヲ求ムル者又ハ被告人ヨリ訴訟事件ニ付テノ證據人ナリトシテ名指シタル者ヲ呼出ス可キナリ○原告證據人被證證據人ノ員數夥多ナルキハ指名ノ順序ニ從ヒ又ハ證據人中最モ事件ノ實狀ヲ知ル可シト思フ者輕罪事件即チ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キ訴訟ニ付テハ各五人重罪事件即チ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ訴訟ニ付テハ各十人ヲ限

リ先ツ之ヲ呼出ス可キナリ但シ事實ヲ見出ス爲メニ必要ナリトスルキハ此規則ノ限リニアラス○又原告人被告人ノ指名モサル者ニテモ豫審判事ノ職權ヲ以テ證據人トシテ之ヲ呼出スヲ得ルナリ○本條ハ事實發見ノ爲メ證據人ヲ呼出ス可キヲ云フナリ蓋シ證據人ノ口證ハ裁判上最モ得易ク且ツ最モ有用ナルモノ一ニ居ルナリ何故トナレハ其罪ヲ犯スニ方リ多クハ之ヲ目撃スルノ證人アルノ故ニアラス却テ實際犯罪ヲ目撃スル者甚ク僅少ナリト雖モ犯罪ト同時若クハ其前後ノ模様並ニ被告人ノ人ト爲リ其品行等皆ナ外人ノ證言ニ由ラサルヲ得サレハナリ斯ク呼出シタル證人ノ口證ハ直チニ被告事件ニ付キ之ヲ爲シ又ハ管ニ附加從屬ノ事件ニ付

キ之ヲ爲スヲ論セス皆ナ判事ノ必証ヲ作爲シ證據ヲ尋見シ又ハ事實ノ推測ヲ惹起スヲ得可キモノトス本條ニ呼出ス可キ証人ノ員數ヲ五名又ハ十名ト限リタル所以ノモノハ冗長ヲ増シ無用ノ遷延ヲ致ス等ノ患ナカラシメンカ爲メナリ 治罪法註釋第二 百九十七七八九條

○詳解ニ曰ク本條ハ証人ヲ問糺スルニ付テノ第一端ヲ啓シモノトス○(問)証人トシテ喚問スルモノハ概テ犯罪ノ事實ヲ目撃シタルモノニ限ルノ謂ヒ乎(答)然ラス如何ナレハ凡ソ罪ヲ犯スニ必ス衆人輻湊ノ間ニ於テスルモノト期スルヲ得ルモノナラス還テ多ハ隱密ノ間ニ之ヲ爲スモノ多クシテハナリ則チ法律ノ欲スル所ニ寔ニ左ノ如クナルヘシト信ス○第一 犯罪ヲ目撃シタルモノ 第

二犯罪ト同時若クハ其前後ノ模様ヲ知ルモノ 第三被
告人若クハ被害人ノ人ト爲リ其素行又ハ品行等ヲ知ル
モノ是等ノ者ハ概テ証人トシテ喚問セラルヘシ蓋シ被
告人ノ申供ヲ監察シ其虛實ヲ知ルモノハ多ク外人ノ証
言ニ由ラサレハ能ハサレハナリ○(問)証人ノ員數ヲ定メ
タルハ抑何ノ理由ニヤ蓋シ法律ハ重輕罪ニ付証人ノ多
寡アルモノ、如ク推測セラレタレトモ是レ恐ラダハ實際
ニ適ハサルモノナラン如何トナレハ重輕罪ニ付テ實際
証人ノ多少ヲ生スヘシト思考スルノ根據アラサレハナ
リ(答)實際ニ付テ之ヲ見レハ或ハ罪ノ輕重ニ依リ証人ヲ
制限ス可カラサルノ理由アラシ然レモ法律ノ慮ル所ハ
問者ノ疑ヲ解ト其理趣ヲ異ニス夫レ法律ハ証人夥多ニ

シテ隨テ冗費ヲ増シ無用ニ審判ノ遷延ヲ致スヲ患ヒ以テ之カ制限ヲ爲シタルモノナリ故ニ若シ實際ニ於テ証人ヲ要スルノ場合アラハ其制限ニ拘々タルコトナク本條第二項但書若シハ第三項ニ由リ假令其員數夥多ニ至ルノ恐レヲ有スルト雖モ敢テ之ヲ慮ルニ及ハス充分証人ヲ喚問シテ可ナリ抑問者ノ疑フ所ハ本條第二項ヲ解スルニ極メテ狭少ニ失セラレシモノニ外ナラス何ソ法律ハ罪ノ輕重ヲ以テ實際有用ナル証人ヲ制限スルモノナラシヤ問者乞フ宜シク前後ノ文意ニ就テ之ヲ解セラレシトシテ

治罪法詳解第三十三號第二十一二三葉

○森氏曰ク證人ノ口證ハ裁判官ノ心證ヲ爲スニ於テ缺ク可カラサル要具ナリ蓋シ實際其犯罪ヲ目撃シタル者ハ

甚ク僅少ナル可シト雖モ犯罪前後ノ模様及ヒ被告人ノ舉動素行等ヲ熟知スル者アリテ之ヲ喚問スルハ大ニ事實ヲ發見スルコトアル可シ故ニ豫審判事ハ檢事民事原告人及ヒ被告人ヨリ證人トシテ指名シタル者ハ必ス之ヲ呼出ス可シ○然レ原被ノ指名シタル證人夥多ニシテ悉ク之ヲ喚問スルハ無益ノ費用ヲ糜シ空ク時間ヲ費ス可シト見込メハ輕罪ニ付テハ原被各五人重罪ニ就テハ各十人ト證人ノ員數ヲ限ルコトヲ得可シ○原被ノ指名セサル者ト雖モ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ豫審判事ノ職權ヲ以テ證人トシテ喚問スルコトヲ得

治罪法詳解第六十第一葉

編者曰ク清浦氏云ク豫審又ハ公判ニ付證人ヲ呼出サント

請フ者アル時ハ云々其費用ヲ添納セシムヘシ若シ被告人
 資力ナキ時ハ裁判所ニテ其費用ヲ立替置ク可シ云々ト是
 ノ明治十四年第四十五號布告ノ旨趣ナルヲ以テ氏カ此説
 敢テ誤ルニハアテサレトモ明治十五年第十九號布告ヲ以テ
 右第四十五號布告ハ之ヲ廢シ又明治十五年丙第二十五號
 司法省達ヲ以テ一切費用立替ヲ爲スルヲ得サル旨ヲ達セ
 ラレタルヲ以テ今日ニ於テハ已ニ右ノ説ハ行ス可カラザ
 ル者ナリ

又井田氏云ク証人夥多ナル時ハ一時ニ答之ヲ呼出シ訊問
 スルヲ得ス故ニ事件ノ輕重ニ從ヒ原被ノ証人五名ツ
 又ハ十名ツノ先ツ呼出シ其訊問ヲ爲シタル後餘ノ証人
 ヲ呼出ス可シト此説ニ依ル時ハ本條証人ノ制限ヲ爲スル

只夥多ノ証人ヲ一時ニ訊問シ難キヲ以テ先ツ五名又ハ十
 名ヲ呼出シ後ニ餘ノ証人ヲ呼出スルノ趣意ト爲セリ蓋シ誤
 レテ夫レ本條証人ノ制限ヲ爲スル無益ノ費用ト手續ヲ省
 クノ趣意ニ出タル者ナリ何トナレバ原被ノ求メアリト必
 要ナラサル証人ヲ夥多呼出セハ爲メニ冗費ヲ生シ又事務
 ノ遷延ヲ生ス故ニ豫審判事ノ權ヲ以テ五名又ハ十名ヲ呼
 出シ之ヲ訊問スル者ナリ何ソ一時ニ訊問シ難キノ故ニ爲
 ス所ノ制限ニアラソ乎又其五名又ハ十名ヲ訊問シタル後
 餘ノ証人ヲ必ス呼出スモノニアラス事實發見ノ爲メ必要
 ナル時ハ五名又ハ十名ノ制限ニ拘ハラテ大呼出シ訊問スル
 ヲ得ルノ趣意ナリ

又織田氏云ク輕罪事件即チ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キ訴訟

ニ付テハ各五人重罪事件即チ禁獄以上ノ刑ニ該ル可キ訴訟ニ付テハ各十名ヲ限リ之ヲ呼出ス可キナリト夫レ輕罪ノ刑ハ禁錮ト罰金ナリ然ニ氏ノ説ノ如ク輕罪事件即チ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キ者ト云フキハ禁錮以下ハ拘留科料ノ刑ニ該ル可キ者モ之ヲ包含スルナリ然レ本條ニ謂フ所ノ輕罪事件トハ禁錮ト罰金ノ刑ニ該ル可キ者ノミヲ指シ汎ク禁錮以下ノ刑ニ該ル者ヲ指スニ非ラス又重罪事件即チ禁獄以上ノ刑ニ該ル可キ者トアルハ國事ニ關スル重罪事件ノ刑ノミヲ指スキハ可ナリト雖レ常事犯ノ刑ヲモ包含セシムルノ意ナレハ禁獄又ハ懲役以上ノ刑ニ該ル可キ者ト謂ハサル可カラス

〔二〕清浦氏曰ク民事裁判所ニ於テハ原告又ハ被告ヨリ指名

シテ呼出ヲ請求シタル者ニアラサレハ裁判官ノ職權ヲ以テ其他ノ者ヲ證人トシテ呼出スヲ許サス若シ之ヲ許スニ於テハ裁判官ノ私意ヲ以テ過度ニ一方ヲ保護スルヲ恐アレハナリ刑事ニ在テハ否ラハ其訴訟ノ性質異ナルヲ以テ假令原告又ハ被告ヨリ請求セサル者ト雖レ事實ヲ證明スルヲメ其陳述ヲ聽クヲ必要ナリトスルトキハ證人トシテ之ヲ呼出スヲ得其證人呼出ニ關スル費用ハ原被両造ニ負擔セシムルハ理ナキヲ以テ裁判所ハ費用ヲ以テ之ヲ支辨セサルヘカラス五百八十一條第二號

○横田氏曰ク證人タル可キ者ヲ定ムル方法治罪法講義第二卷第百七十條

二 豫審ノ證人ハ公判ノ證人ノ如ク必スシモ檢事其他訴訟關係人ヨリ差出ヌヲ待テ之ヲ訊問スルニ非ス

証人其豫審判事ノ管轄地外ニ在ル時ハ次條ニ定ムル如ク訊問ヲ囑託スルノ法アリト雖モ親シク訊問セザルハ事實ヲ發見スルコトヲ得サル場合アリ此等ノ場合ニ於テハ管轄豫審判事ノ面前ニ呼出サレ可カラス之ヲ呼出スニハ其証人所在ノ地ノ輕罪裁判所ノ書記ニ囑託シテ呼出狀ヲ送達セシム但此裁判所ヨリ彼裁判所ニ呼出狀ヲ送ルハ郵便ニ付ス可キ者ニテ使丁ヲ使フ者ニ非ラス

一 証人呼出狀送達ノ解

〔一〕村田氏曰ク証人ノ呼出ハ豫審判事ノ名ヲ以テ之ヲ爲シ書記其所屬ノ使丁ヲシテ呼出狀ヲ送達セシム其送達ノ式ハ訴訟關係人ニ於ケル者ト異ナルコトナシ若シ証人其

裁判所ノ管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ニ使丁ヲ發遣スルコト能ハサルヲ以テ其地ノ書記ニ囑託シテ送達ヲ爲サシム可シ治罪法註釋第四卷第二十四、五葉

○清浦氏曰ク証人呼出ノ請求ハ原告又ハ被告ノ申立ニ出ルモノナリト雖モ之ヲ呼出スニハ豫審判事ノ名ヲ以テ出頭スヘキ旨ヲ命令シ書記ヨリ使丁ヲシテ呼出狀ヲ送達セシム其式ハ第二十三條ノ規則ニ從フモノトス此ノ如ク呼出狀ノ送達ヲ鄭重ニスルモノハ其証人呼出ニ應セサルキハ其事件ノ審判ヲ爲ス能ハス且其証人ニハ罰金ヲ言渡スノ法アルヲ以テナリ○第二項ハ總則第二十條二項ト同一ノコトナルニ拘ハラヌ爰ニ複出シタルモノハ彼レハ訴訟關係人ニ係ル條項ニシテ是レハ証人ノ

○ 横田氏曰ク呼出狀ノ送達治罪法講義第二卷第七十五條

一 第七十一條ニ呼出狀ヲ送達スルハ第二十三條ノ規則ニ從フ可キヲ定ム而シテ第二十二條ノ規則

ニ從フ可キヲ脱漏シタリ何トナレハ第二十三條

ニハ送達人トノミアリテ送達人ノ何者タルヤヲ知

ル可カラズ且第二十二條ノ規則ニモ從フ可キヲ定

定ムルハ別段第二項ヲ掲載スルニ及ハサル可シ

二 第七十一條第二項ハ第二十二條第二項ノ規則ト

異ナルヲナシ然レモ本條ニ送達ノ事ヲ囑託スルハ

輕罪裁判所書記ニ限リタルハ實際甚タ不便ヲ免レ

ニス蓋シ証人訊問ノ事ト雖モ直ニ管轄地外ノ治安

判事ニ囑託スルヲ得ルヲ以テ豈証人呼出狀送達

ノ事ヲ治安裁判所書記ニ囑託スルヲ得サルノ理

アラシヤ且第二十二條ニハ其地ノ裁判所書記トノ

記載セリ頗ル輕罪裁判所書記ニ限リタルノ穩當

ナラサルヲ覺フ

○ 長井氏曰ク呼出狀ハ第二十三條ノ規則ニ依テ書記其送

達方ヲ取扱フヘキモノトス但管轄地外ハ書記其取扱ヲ

爲スヲ得サルニ付キ若シ遠隔ノ地ノ證人ヲ呼出スルハ

其住所ノ地ノ書記ニ囑託シテ呼出狀ヲ交付セシムヘキ

者ナリ治罪法註釋第二卷第六十一條

○ 立野氏曰ク證人ヲ呼出スニ付テノ法式ハ第二十三條訴

訟關係人呼出ノ手續ニ同シ但其管轄地外ニアル者ニ付

ヲハ呼出ヲ爲スニカラサルヲ以テ其所在ノ地ノ輕罪裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可キモノトス治罪法註解第百九十一條

○織田氏曰ク證據人ヲ呼出スニハ豫審判事ノ名ヲ以テス可シ但シ其呼出狀ハ第二十三條送達書ノ規則ニ從ヒ之ヲ送達ス可シ若シ證據人豫審判事管轄ノ地外ニアルハ其住所ノ地ノ輕罪裁判所書記ニ呼出狀送達ノ事ヲ委任ス可キナリ○本條ハ證人呼出ノ手續ヲ云フナリ裁判所ノ書記ハ其管轄地外ニアル者ニ付テハ呼出ヲ爲ス可カラサルヲ以テ豫審判事ハ遠隔セル證人住所ノ地ノ書記ニ依頼シテ呼出狀ヲ交付セシムルナリ治罪法註解第百九十一條

○詳解ニ曰ク本條ハ證人ヲ召喚スルノ規則ニシテ之ヲ送達スルニハ總則即チ第二十三條ニ定ムル所ニ遵フヘキ

豫審判事ハ證人裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得

一ヲ定メ若シ證人管轄外ニ在ルハ其管轄輕罪裁判所ノ書記ニ之ヲ送達ヲ囑託スヘキ一ヲ定メハ送達ノ事ヲ別ニ討論ヲ要スルモノナシ治罪法註解第百九十一條

○森氏曰ク證人呼出ハ豫審判事ノ名ヲ以テシ第二十三條ノ規則ニ從テ其呼出狀ヲ送達ス可シ○他ノ裁判所管轄内ニ在ル所ノ證人ハ直チニ呼出狀ヲ送達スルヲ能ハサルニ付其所在ノ地ノ裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ治罪法註解第百九十二條

編者曰ク右諸氏ノ說允當ナリ

第七十二條

若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審判事
又ハ治安判事ニ訊問シ事ヲ囑託スルコトヲ得
本條ノ場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受ケタル判事ノ名
ヲ以テ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達ス可シ

〔註本條ハ証人訊問ヲ囑託スル規則ヲ定ム証人ハ豫審判
事ヲ面前ニ呼出シ之ヲ訊問スルヲ本則ト爲ス然レ遠
隔ノ地ヨリ之ヲ呼出スハ實ニ其往復ノ勞擧トモ大故
ニ本條ニ於テ其變法ヲ設ケ囑託スルコトヲ許シテ
証人豫審判事ノ管轄地内ニ在リト雖モ其裁判所所在
ノ地ニ往セサル時ハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ
事ヲ囑託スルコトヲ得若シ豫審判事ノ管轄地外ニ在ル
時ハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ治安判事ニ訊問シ事

ヲ囑託スルコトヲ得而モ其囑託ニ付直ニ訊問シ
區別其事實親ク之ヲ聞キサル可カラサル者ト否トニ
因テ豫審判事ノ見込ヲ以テ之ヲ決ス可シ但囑託ヲ爲
スニハ訊問ス可キ條件ヲ明示セサル可カラズ
本條ハ訊問ヲ囑託スル者ナドハ管轄豫審判事ニ呼
出狀ヲ發スル者ニテラス故ニ受託ノ判事ノ名ヲ以テ
呼出狀ヲ作り其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達スル者
ナリ
受託ノ判事ノ權限如何ノ豫審判事ハ管轄豫審判事ト
同ク之ノ權ヲ有スト雖モ治安判事ハ然ラス其証人ニ對
シ輕罪ノ刑ニシテ罰金ヲ言渡スコトヲ得ズ故ニ証人呼出
ニ應セサルモ又ハ宣誓員肯シテス若シハ陳述ヲ肯シ

セザルモ直チニ罰金ノ刑ヲ言渡スヲ得ス只之ヲ勾引シ又宣誓セザルコトハ妨テナキナリ

第四十六號

明治十四年九月二十日
太政官布告

治罪法第百七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルコトヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルコトヲ得

(註)証人訊問ヲ司法警察官ニモ囑託スルコトヲ許シタル趣意ハ治安裁判所ト雖モ其數多カラズ故ニ証人治安裁判所ニ出ツルモ猶ホ遠隔ノ地アリ而テ司法警察官ハ各地ニ滿布セルヲ以テ之ニ囑託スルコトヲ許セハ頗ル官民ノ便ヲ得ルヲ以テナリ然ルニ受託ノ司法警察官ノ權限ハ右ニ說明セテ治安

判事ト同一ニシテ証人呼出ニ應セザルモ又其宣誓ヲ肯セズ若シ陳述ヲ肯セザルモ罰金ヲ言渡スコトヲ得ス然モ呼出ニ應セザル証人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得又宣誓ハ之ヲ爲サザルコトヲ得然モ治安判事ハ元來裁判官ナルヲ以テ証人ヲ罰スルノ權ナキニ非サレバ罰金ハ輕罪ノ刑ナルヲ以テ其權限ヲ越フルヲ以テ之ヲ言渡スヲ得サルナリ而テ司法警察官ハ裁判官ニ非サルヲ以テ裁判言渡ヲ爲スノ職權ナキ者ナリ故ニ証人ニ對スル罰金ト雖モ之ヲ言渡スヲ得ス且勾引ト宣誓前ニ管轄豫審判事ノ囑託ニ因テ之ヲ爲スヲ得ルト雖モ罰金ノ言渡ス如キモ囑託ニ依リテ得サル者ナリ故ニ之ヲ爲スヲ得

証人訊問囑託の解

〔一〕村田氏曰ク証人管轄地内ニ住スルモ其住居裁判所所在
 ノ一市内ニ在ラサル時ハ遠ク之ヲ呼出スコトヲ必要トセ
 ス事件輕微ニシテ繁難ナラサルニ於テハ其住所ノ地ノ
 治安判事ニ囑託シテ訊問ヲ爲シ調書ヲ送致セシムルヲ
 得可シ証人管轄地外ニ在ル時モ亦同シ治罪法註釋第四
卷第二十五條
 ○清浦氏曰ク証人其裁判所ノ管轄地内ニ在リト雖モ其所
 在ノ地ニ住セサルハ便宜ニ從ヒ其証人住所ノ地ヲ管
 轄スル治安裁判所詰ノ判事ニ訊問スベキ條件ヲ明示シ
 テ囑託ヲ爲スコトヲ得又管轄地外ニ在ルトキハ遙遠ノ地
 ヲ呼出スノ煩勞省ナラサルニ由リ訊問スベキ事件ノ
 如何ニモ其所在ノ地ヲ管轄スル豫審判事ニ囑託スル

カ又ハ直チニ治安判事ニ囑託スルコトヲ得通常ノ場合
 ニ於テハ治安判事ニテ輕罪ノ刑タル罰金ヲ言渡ス等
 權ナシト雖モ此場合ニ在テハ豫審判事ノ代理者ナルヲ
 以テ証人訊問ノコトニ關シテハ總テ豫審判事ノ爲シ得
 キ權ヲ行フコトヲ得○本年九月太政官ヨリ第四十六號ハ
 布告ヲ以テ治安判事ニ囑託スルコトヲ許シタル處分ハ當
 分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルコトヲ許セリ故ニ
 其囑託ヲ受ケタル條件ニ限リテハ司法警察官モ全ク判
 事ト同一ノ權ヲ有スルモノトス隨聽隨筆第十號第
百八十五條
 ○横田氏曰ク訊問ノ囑託治罪法講義第二卷
第百七十六條七號
 一 豫審判事其管轄地内ノ治安判事ニ囑託ヲ爲スコトヲ
 得ルハ當然ナリト雖モ平常治安判事ノ行フコトヲ得